



福井大学附属図書館

自己点検評価報告書

平成29年3月

目 次

はじめに	1
1. 附属図書館の目的と目標	2
2. 利用支援	6
2.1 教育支援	6
2.1.1 資料の収集・整備	6
2.1.2 図書館利用指導	9
2.1.3 図書館間相互貸借	11
2.2 研究支援	13
2.2.1 電子ジャーナル	13
2.2.2 文献データベース	15
2.2.3 学術機関リポジトリ・地域共同リポジトリ	16
3. 図書館活動	17
3.1 利用時間と貸出	17
3.1.1 利用時間	17
3.1.2 貸出	18
3.2 OPAC と遡及入力	20
3.3 広報活動	21
3.3.1 学術情報ポータルとしてのホームページ	21
3.3.2 展示と刊行物	22
3.4 地域との連携	28
4. 管理運営	30
4.1 施設・設備の整備と利用状況	30
4.1.1 建物	30
4.1.2 書架・書庫	31
4.1.3 その他の設備	33

4.2 組織体制	34
4.3 予算と経費	35
4.4 自己点検評価体制	36
自己点検評価表【平成28年3月末現在】	37

資料編

総合図書館利用者アンケート集計結果	43
総合図書館利用者アンケートQ&A	55
医学図書館利用者アンケート集計結果	57
医学図書館利用者アンケートQ&A	69

統計編

統計	73
----------	----

はじめに

国立大学を取り巻く環境が厳しくなってきたと言われて久しいものがあります。記憶をたどっていくと、それはおおよそ国立大学の法人化のあたりくらいだと思います。法人化以降の国立大学は、地域の学術と文化の拠点として人材の育成や研究成果の社会還元などが求められてきました。特に地方に位置する大学の一つとしての福井大学は、主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とすることを選択しています。このような状況の中で、本学の附属図書館の在り方や方向性も積極的に議論していかなければなりません。

大学図書館の在り方については、すこし古い話ですが、平成 22 年 12 月に文部科学省研究振興局情報課基盤整備室より出された文書「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」に変革する大学にあって求められる大学図書館像として、そのあるべき姿が具体的に述べられています。そこには、大学における高等教育と学術研究活動を支える学術情報基盤としての大学図書館の中核的役割に加えて学習支援や教育活動への関与が述べられています。本学図書館でもラーニングアドバイザー制度やラーニングコモンズの設置などを積極的に導入し対応してきました。限られた予算の中で最大限に活用できる電子ジャーナルの契約方法などは他大学図書館からも問い合わせがあるなど評価を受けています。

一方、これからは教育的な支援・関与にはアクティブラーニングスペースの確保などハードのみならず、その運用などソフト面での活用が重要になってきます。これには教員の協力なしには達成できないものがあります。しかし、教員、スタッフの削減などの厳しい環境の中で、教員と図書館スタッフが一丸となって教育に関与できる状況にも程遠く、今後の図書館の在り方をいかに考えていくか大きな課題ととらえております。

変革期にある大学図書館が学生・教職員などの利用者のニーズを把握し、これに応じて行くだけでなく、これからの図書館の在り方を模索していく必要を痛感しています。この附属図書館の自己評価書をもとに大学図書館の将来について、利用者の皆様に大いに議論してもらい、新たな学内のみならず地域の教育・研究の拠点となるための一助となすことを念じております。

附属図書館長 末 信一郎

1. 附属図書館の目的と目標

1.1 目的

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的かつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践することを目的としています。(福井大学学則第1条)

また、附属図書館は、図書、学術雑誌その他必要な図書館資料を収集、整理、保存及び提供し、併せて学術情報を提供するシステムを整備することにより、福井大学における教育、研究及び学習を支援するとともに、地域社会の知的情報の拠点としての役割を果たすことを目的としています。(福井大学附属図書館規程第2条)

1.2 国立大学法人福井大学の中期目標・中期計画【平成22年度～平成27年度】(附属図書館関係)

中期目標	中期計画
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標 (3) 学生への支援に関する目標 ① 社会を主体的・能動的に担っていく人間の形成を目指して、学生の成長を積極的に促す学習支援、生活支援、就職支援を行う大学づくりを進める。 2 研究に関する目標 (2) 研究実施体制等に関する目標 ○研究環境の整備 ② 教員個人及び組織の研究目標の達成並びに新たな研究分野の開拓に向け、適切な研究体制及び環境を確保する。	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置 ①-1 学生が自主的な学習活動を展開出来るように、よりよい修学支援の在り方を含め、学生の修学環境等の維持改善を進める方策を実施する。特に学生支援センターや図書館等を中心として、組織的な対応体制の整備・充実を図り、関係者の満足度の高い学習支援体制の構築や取組みを進める。 2 研究に関する目標を達成するための措置 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置 ○研究環境の整備 ②-3 附属図書館、学内情報ネットワーク等の全学共通研究インフラを維持・充実する。

<p>3 その他の目標</p> <p>(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標</p> <p>① 地域の知の拠点として、高度な知的資源を社会に還元する。</p>	<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1 地域ニーズを的確に把握し、大学の持つ知的資源を有効に社会還元できる全学の体制を整備・充実する。</p>
---	---

1.3 国立大学図書館協会ビジョン 2020

国立大学図書館協会は、「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン 2020～」を制定し、大学図書館の基本理念を次のように定めています。

大学図書館の基本理念

大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

また、この基本理念を実現するために、次のように3つの重点領域とそれぞれにおける戦略的な目標を設定しており、国立大学図書館協会と会員館である福井大学附属図書館は、自らの役割と活動のあり方をつねに見直しなが、各重点領域における目標の達成に向けた取り組みを進めます。

重点領域 1. 知の共有：〈蔵書〉を超えた知識や情報の共有

大学図書館は、知の共有という観点から、大学における教育・研究に必要な知識、情報、データを網羅的に提供する必要がある。紙の図書や雑誌等によって構築された従来の蔵書に加え、電子ジャーナルや電子ブック等の電子的リソース、機関リポジトリに収載される研究論文、学習教材やデータといった教育研究成果、さらにはインターネット上にあつて誰もが自由にアクセスできる有用なコンテンツをも含む全体を対象として知の共有のための方策を検討し、実現する。

目標 1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存

国立大学図書館は、大学で生み出される教育研究成果の電子的流通とオープン化を推

進するとともに、それらの長期的な保存をはかる。

目標 2) 出版された資料の整備と利用

国立大学図書館は、紙の図書や雑誌等の蔵書、契約によってアクセス可能となる電子ジャーナルや電子ブック等の電子的リソース等を適切に整備するようにつとめ、利用環境をととのえるとともに、長期的な利用を可能とする。

目標 3) 知識や情報の発見可能性の向上

国立大学図書館は、総合目録データベースをはじめとする学術情報システム基盤を高度化することにより、知の総体を対象として、必要な情報がより効率的・網羅的に発見できる環境を実現する。

重点領域 2. 知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

大学図書館は、これまで人と知識や情報、あるいは人同士の相互作用を生み出すコミュニケーションの場であり、知を創出する空間であった。これからは、旧来の「館」の壁を超えてその場を拡張し、さらには物理的な場だけでなく、知のネットワーク上に存在する仮想空間を新たな知を創出するための場として活用することにより、教育・学習の質を向上させ、研究活動を支援するとともに、大学と社会との連携を促す。

目標 1) 知を創出する場の拡大・整備・提供

国立大学図書館は、人と知識や情報、あるいは人同士の相互作用を生み出すコミュニケーションの場を提供し、そのような場を拡張することで、教育・学習や研究を通じた知の創出を促す。

目標 2) 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

国立大学図書館は、学術コミュニティに限らずさまざまな人びとが知を媒介として集い、さらに新たな知の創出と共有を実現する場を提供する。

重点領域 3. 新しい人材：知の共有・創出のための〈人材〉の構築

大学図書館は、さまざまな能力やスキルを有する人材が混在するハイブリッド（複合的）な人材の集合体を形成することで、大学図書館に期待される新たな役割を果たすとともに、多様な知の共有と創出を促す。そのために、新たな人材の構築が実現できるような制度を整備する。

目標 1) 新たな人材の参画

国立大学図書館は、教員、職員、研究者、学生等を含むさまざまな能力やスキルを有する人びとと図書館職員とが一体となり、蔵書の評価や選別にかかる「キュレーション」や人と知識や情報、あるいは人同士の相互作用を促す「ファシリテーション」等の機能を提供することにより、多様な知の共有と創出を実現する。

目標 2) 国立大学図書館職員の資質向上

国立大学図書館職員は、これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識やメタデータ運用スキルに加え、新たな知識やスキルを習得することにより、学術情報流通環境の変化の中で国立大学図書館に期待される新たな機能を実現する。

会員館である福井大学附属図書館は、協会の活動と連動し、学内の関係部署や他の国立大学図書館をはじめとする国内外の図書館の協力を得ながら、それぞれの大学のミッションや中期目標等に沿うように戦略的目標を選択してその達成をはかり、上記大学図書館の基本理念の実現をめざします。

2. 利用支援

2.1 教育支援

2.1.1 資料の収集・整備

本学附属図書館の、平成27年度末現在の蔵書数は約66万冊、年間受入冊数は約10,000冊である。本学は教育地域科学部・医学部・工学部の3学部からなり、小規模大学としては多岐にわたる資料の収集・整備が望まれている。資料の収集・整備に当たっては、限られた予算の範囲で、利用者が必要とする図書館資料の収集が特に求められる。また、電子媒体による資料整備についても、中期計画において、「学術情報基盤である電子ジャーナルや文献データベースについて、利用状況を勘案しつつ、効果的な活用を図るとともに、所蔵資料を対象とした電子図書館の充実を継続する。」としているように、大学図書館として教育・研究を支援するための学術情報の提供を主眼とすることが必要である。

今回のアンケートの結果、質問24「必要とする資料は図書館に揃っていますか？」に対して、「十分に揃っている」「だいたい揃っている」を合わせると、約8割の利用者が満足しており、一定の評価は得られている。

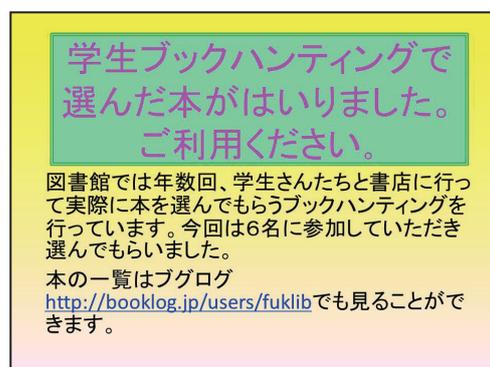
資料の収集に係る選定は、教員による推薦、利用者ポータルサービスからのリクエスト受付、ブックハンティング、図書館員による選書等により行っている。

平成23年度の図書館システムリプレースにより、Webによる推薦図書受付システムを利用し日常的に教員や学生による推薦を受け付けている。ほかに、年間数回の頻度で教員に対して学生用図書の推薦依頼による収集・整備を行っている。

また、総合図書館、医学図書館において、それぞれ独自に学生が直接書店に赴き図書を選定するブックハンティングを行い、学生の視点から見た資料選定手法を加えている。このブックハンティングの実施により、学生からは自分たちが選んだ図서가図書館に配架され他の学生に利用されるということで、図書館に対する意識が高まり、また学びへの関心が深まったという意見が出ている。

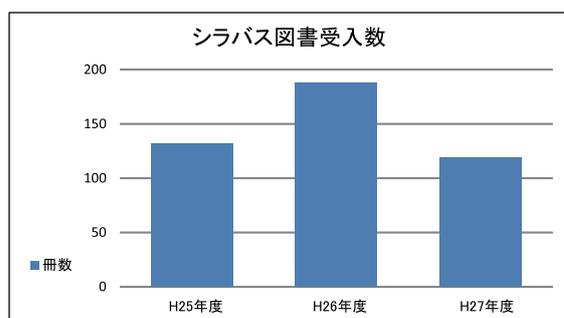


ブックハンター募集ポスター

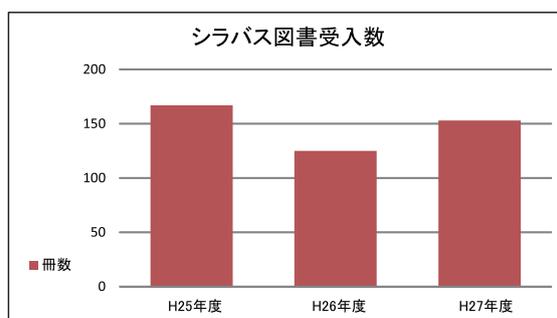


Web上のブックレビューを利用した告知ポスター

学習用図書として重点的に収集・整備を図る必要がある資料としては、シラバスに掲載されている教科書・参考書等がある。総合図書館では、前年度中のなるべく早い時期に教務課から入手したシラバスデータをもとに未所蔵図書を購入している。医学図書館においても、シラバスに記載された図書は毎年購入し、学生の利用の便宜を図っている。特に、利用の多い図書についてはあえて複本を購入している。



総合図書館



医学図書館

総合図書館においては、小・中・高等学校教科書の指導書の整備をおこなっており、平成 25 年度は 122 冊、平成 27 年度は 55 冊と継続的に整備している。更に、就職支援の一環として就職活動に役立つ図書や、資格試験、英語検定の問題集等 30 冊を集中的に整備すると共に既存の関係図書を集めて 171 冊で「就職支援コーナー」として整備した。また、平成 27 年度には、国際地域学部創設準備の一環として Cambridge University Press 社 128 冊、Oxford University Press 87 冊の洋書の冊子体と Wiley 78 冊の洋書の電子書籍を購入した。

雑誌について、総合図書館においては、学術雑誌から就職、趣味の分野の雑誌等幅広く収集し、現在、外国及び国内雑誌の 150 誌を開架して利用に供している。医学図書館においては、医学・看護学関係の専門雑誌は教員推薦により、また教養雑誌は学生の希望を取り入れ、外国雑誌 50 誌を含む 110 誌を購入している。医学図書館の使命は、いつでも取得できる情報を提供していかなければならないため 24 時間開館し、図書・雑誌ともすべて開架書架に配置して利用に供している。

電子資料については、平成 20 年度以降、Springer eBook, eBookLibrary(丸善雄松堂), eBookCollection(EBSCO)を購入し、平成 25 年度より、貸出・返却型電子書籍配信サービス BookLooper(丸善雄松堂)を導入し合わせて 10,460 タイトルがアクセス可能になっている。

電子ブック	冊数
Springer eBook	9,550
eBookLibrary	574
eBookCollection	26
BookLooper	310
合計	10,460

また、平成 27 年度までに、貴重資料の管理・保存と貴重な資料を広く一般に公開するために和装本 110 点のデジタル化を行っている。

ホーム / 資料情報検索 / 電子図書館コレクション

資料情報検索

電子図書館コレクション

- ▶ ディスカバリー
- ▶ 図書・雑誌
- ▶ 学認について
- ▶ 電子ジャーナル・電子ブック
- ▶ 学術文献データベース
- ▶ 外部の学術情報源
- ▶ 電子図書館コレクション

小島家文書(データベース)

郷土資料
小島家文書(データベース)
所在: 特殊資料室
坂井郡野中村の大正屋であった小島家(当主: 東京都 小島章宏氏)から寄贈された江戸から明治中期にかけての地方史料です。

H021||BAI 榎陰談 上・下

郷土資料
榎陰談 上
榎陰談 下
請求記号: H021||BAI||1 登録番号: 0160276470 所在: 郷土資料室(和装本コーナー)
請求記号: H021||BAI||2 登録番号: 0160276482 所在: 郷土資料室(和装本コーナー)
榎陰談 2巻
榎園(著) 上・下 - 吉田長右衛門, 1712. <BB00346149>
榎陰談 2巻 / 榎園(著) | オウイン フォン
筆名: 吉田長右衛門 | 林正五郎, 正徳2 [1712] [F1]
2冊: 25.8x18.8cm
参考資料
実貫 じっかん, 1666-1720 江戸時代前期・中期の僧。
寛文6年生まれ。真言宗。根来寺(ねごろじ)宝積(ほうしやく)院の快心について受戒し、智輪院の運徹(うんしやう)にまなぶ。享保(きやうほう)5(1724)年寺社奉行土井利徳(としもの)の命で江戸真福寺の住職となる。のち仙台藩主伊達吉村(いたてきちむら)により電宝寺にまわられた。和歌(わか)書面(しよめん)で書かれた。享保6年(1725)4月6日死去。55歳。越前(えちぜん) (福井県)出身。俗姓(よこな)は丹下。字(あざな)は泰音(たいおん)。号(ごう)は榎園(えん)。著作に「性靈集(せいりやうしゆ)巻抄(まきしょう)など。(JapanKnowledge Lib 日本人名事典(Kodansya)による。)

榎陰談 おみいんふだん
随筆(ずいひつ)二巻(にまき)【著者(しやくしや)】榎園(えん)。字(あざな)は佛臣(ぶつしん)、仙臺(せんたい)の僧(そう)。小傳(せうでん)不明。【刊行(くわんぎやう)】正徳(しょうとく)二年(に)【解説(かいせつ)】漢文(わんぶん)の随筆(ずいひつ)で、和漢(わくわん)事物(じぶつ)の起原(きげん)・旧慣(きうくわん)・古語(こご)・物名(ものな)の所由(しよゆ)・その他(その他)流俗(りゆうじやく)の行事(ぎやうじ)等に就(つ)いて理解(りやうかい)したもので、佛物(ぶつぶつ)に係(か)ることが多い。巻一(まきいち)に加持(かじ)聖(せい)明(めい)王(わう)・煙草(えんそう)・番根(ばんこん)以下(以下)五十九(ごじゅうきゅう)則(すなわ)ち、巻二(まきに)に朱子(しゆし)用(よう)佛語(ぶつご)・雜語(ざご)・鐘馗(しゆい)非人(ひにん)名(な)以下(以下)百十八(ひやくはち)則(すなわ)ち取(と)りかへて、簡略(かんりやく)ながら百科(ひやく)的(てき)知識(ちしき)を供給(きよきやう)する概(がい)があるが、漢文(わんぶん)で記(き)したのは氣(き)が知(ち)れぬ。寛永(かんえい)七年(しちねん)著者(しやくしや)の自序(じよぎよ)がある。(新潮(しんしやう)日本文学(にほんぶんがく)大辞典(だいじけん) 第一(だいいち)巻(まき) (新潮(しんしやう)社(しゃ))による。)

電子図書館コレクション画面



東海道風景図絵 (デジタル化された和装本の例)

2.1.2 図書館利用指導

総合図書館では、教育地域科学部と工学部の新入生全員を対象に「新入生オリエンテーション」、工学部の新入生を対象に「情報処理基礎」が授業カリキュラムに組み込まれている。また、教育地域科学部においては、希望する研究室等に図書館情報リテラシー教育講習会を実施している。

「情報処理基礎」では、講義の半ばと後半に演習をいれ、問題の数を増やすなど演習時間を増やし、実践的な内容とした。演習問題には、回答に加え講義の感想も書いてもらい、今後の参考としている。

この他、利用者個々のレベルや要望に応えるため、利用者の希望に応じて利用者ポータルサービス、蔵書検索、複写依頼などの図書館の利用方法や資料探索を中心に「いつでも、どこでも」をモットーにカウンターにおいて指導を行っている。利用者ポータルサービスの利用や複写依頼などは図書館ホームページ内にもマニュアルを載せ利用促進をしている。資料貸出期間の延長や県内図書館相互利用などについてもカウンターやオリエンテーション時に指導している。

総合図書館ではチューデント・アシスタント制度により大学院生をラーニングアドバイザーとして採用しサービスをしている。ラーニングアドバイザーは学習支援を主な目的とし、図書館内で学生に学習や図書館活用法をレクチャーするにとどまらず、学生生活全体に関するアドバイスも行い、学生の一助となっている。平成26年度～平成27年度には利用者のアンケートを実施した。それによると、質問に来た学生の多くが回答内容に満足しており、ラーニングアドバイザーの対応についても満足している。ラーニングアドバイザーは時間をかけて丁寧な対応をするよう努めている。

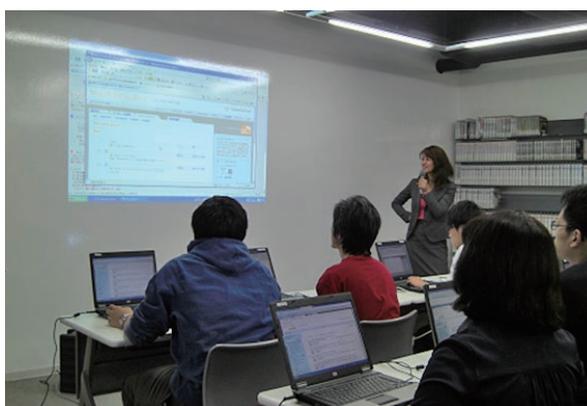
このほかに、文献データベースの利用促進を図るため化学系データベース SciFinder や Web of Science & EndNote basic のベンダーによる利用講習会及び図書館員による講座等への個別の講習会を行っている。

平成28年度 講習会実施状況（総合図書館）

月日	時間	講習会名	内容	対象	受講人数
4月4日	各30分 5コマ	図書館ガイダンス	図書館利用法	文京キャンパス新入生	715名
4月～5月	各90分 8コマ	工学部共通教育「情報処理講義」	情報検索	工学部5学科1年生	545名
	各90分 3コマ	教育地域科学部「情報検索講義」	情報検索	教育学研究科 教育地域科学部公共政策 教育地域科学部公共政策 ワークショップ	30名 9名 21名
6月24日	90分	Web of Science & EndNote basic データベース講習会	WoSとEndNoteの 利用方法	全学	20名
10月26日	120分	SciFinder利用講習会	SciFinder	全学	20名



情報検索講習会



Web of Science & EndNote 講習会

医学図書館では、平成15年度から新入生、新任者へのガイダンスを実施している。さらに、授業カリキュラムの一環として、文献探索法、データベースや電子ジャーナルの使い方、文献依頼等の利用指導を行っている。講義時間は、ガイダンスで20分、講義は50分から90分×3コマまでと多様である。そのため、それぞれの身分、学年、目的に応じて、講義内容および演習問題を「わかる、役立つ」をモットーに調整している。また、講義終了後アンケートを行い、受講者の満足度等をチェックし、内容等の見直しを行っている。さらに、平成28年度には看護部職員及び講座事務担当者対象に図書館利用方法からデータベース検索までを含んだ利用講習会を開催し、研究支援を行った。

毎年、出版社から講師を招いて、CINAHL with full text等のデータベース講習会を開催している。平成25年からはEBMR講習会において、海外講師による講義となり、受講者の語学学習へのモチベーションを高めている。平成28年度にはUpToDate講習にインターネット講習会(ウェビナー)を取り入れ、開講回数を増やし利用者がいながらにして受講できる環境を整えている。



EBMR 講習会

平成28年度 講習会実施状況 (医学図書館)

月日	時間	題目	内容	対象	受講人数
4月1-6日	各20分 3コマ	オリエンテーション	図書館ガイダンス	看護師、技術職員等新任者 両学科新入生、編入生 大学院医学系研究科(修士課程)看護学専攻 大学院生	150名 180名 12名
4月5-13日	各15分 4コマ	新入生図書館ツアー	図書館見学	新入生(希望者)	18名
4月14日- 6月10日	各90分 8コマ	各種情報リテラシー教育	情報検索法 (OPACから日本語医療DB)	大学院医学系研究科(修士課程)看護学専攻 大学院生 看護学科4年×2 医学科1年 看護学科1年 キャリアアップ受講生×2	12名 69名*2 110名 60名 51名*2
4月26-27日	各60分 2コマ	秘書さんのための文献入手講座	文献入手方法 電子ジャーナル	講座事務担当者	11名
6月21日	90分	大学院セミナー	PubMed	大学院医学系研究科[博士課程]統合先進医学専攻大学院生	14名
6月24日	115分	Web of Science & EndNote basic講習会	・Web of Science ・EndNote basic	希望者	31名
6月13-30日	各60分 2コマ	看護部講習会	・図書館の利用法 ・情報探索: 学術情報へのアクセス ・OPAC・My Library ・医中誌WEB	看護部職員	各40名
9月12日	90分	EBMR講習会	EBMR	希望者	3名
9月15日	90分	CINAHL講習会	CINAHL	希望者	13名
9月20日	30分	編入生ガイダンス	図書館ガイダンス	学部編入学生	5名
10月11日	30分	Up to date講習会	Up to dateウェビナー講習	希望者	3名

2.1.3 図書館間相互貸借（ILL：Inter Library Loan）

ILL サービスは所属図書館では入手できない情報を入手する手段として、利用者にとって学習・研究に必要不可欠なサービスとなっている。電子ジャーナルの普及が進み、特に外国語文献へのアクセスは容易になったものもある一方で、その契約には莫大な経費がかかるため、すべてをまかなうことはできない。図書館間で相互協力し、お互いの所蔵資料を利用者に供することは図書館の使命として重要な位置づけにある。図書館の情報リテラシー教育では、ILL サービスの周知徹底を図るため、サービス内容と利用方法を詳細に説明している。また、図書館ホームページに ILL サービスの依頼方法を掲載し、利用方法を確認できるようにしている。

キャンパス間の相互利用は、平成 23 年度には 58 冊であった総合図書館と医学図書館の貸借冊数が、平成 27 年度には 254 冊となり、図書館 Web サービスからの予約で総合・医学図書館からの相互利用ができることがかなり浸透し、利便性の向上・資料の有効利用につながっている。また、県内 ILL サービスとして県内の図書館から資料を貸借するサービスについても、年々利用が増加する傾向にある。（表 1）

さらに、学外への文献依頼時には、データベースで検索した資料を依頼画面に反映させ、依頼者の入力時間の短縮および入力ミスの減少に大きく貢献している。

加えて平成 25 年度からは、図書館内外の様々な情報資源を単一のインターフェースで検索・閲覧可能にする情報探索サービス「ディスカバリーサービス（EBSCO 社）」（図 1）を導入したことにより、一度の検索で、各電子ジャーナル・本文 PDF ファイルへのアクセスの可否及び学内の所蔵情報にたどりつきやすくなり、不要な学外文献依頼が減少している。（表 2）

表 1. 対県立図書館貸借件数（県内公共図書館）

2007.10 より県内公共図書館との相互利用体制が整う。

		平25(2013)	平26(2014)	平27(2015)
総合図書館	貸 出	175	160	158
	借 受	174	234	513
	合 計	349	394	671
医学図書館	貸 出	24	27	29
	借 受	26	43	90
	合 計	50	70	119
合 計	貸 出	199	187	187
	借 受	200	277	603
	合 計	399	464	790

図1. ディスカバリー画面例

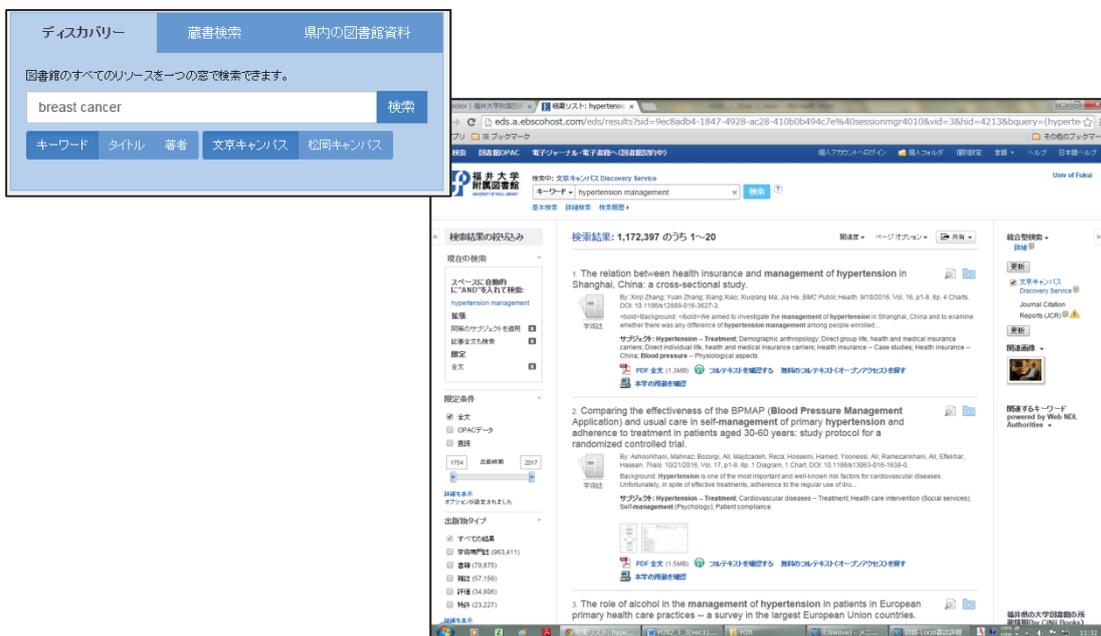


表2. ILL受付件数と依頼件数

			平25(2013)	平26(2014)	平27(2015)
総合図書館	現物貸借	受付件数	404	409	390
		依頼件数	462	522	841
	文献複写	受付件数	728	630	552
		依頼件数	1,203	880	957
医学図書館	現物貸借	受付件数	64	80	70
		依頼件数	35	60	102
	文献複写	受付件数	668	777	652
		依頼件数	2,035	1,817	1,679
合計	現物貸借	受付件数	468	489	460
		依頼件数	497	582	943
	文献複写	受付件数	1,396	1,407	1,204
		依頼件数	3,238	2,697	2,636

2.2 研究支援

2.2.1 電子ジャーナル

電子ジャーナルは、文献データベースと共に学術情報基盤として整備・充実し、安定的に提供することが教育研究を推進する上で必要不可欠なものとなっている。

電子ジャーナル経費については、安定的に提供するため、平成 16 年度から学術情報基盤の整備と位置付け、学内のコンセンサスを得ることで附属図書館経費として予算配分されることになった。

現在、附属図書館経費（共通経費）で購入している電子ジャーナル経費は、約 6,500 万円である。（下図参照）これら契約している電子ジャーナルの総タイトル数は、約 7,000 タイトルとなっている（平成 27 年度）。このほかに、電子ジャーナルは工学部で Applied Physics Letters, IEEE All-Society Periodicals Package, Journal of Applied Physics を購入し、医学図書館の経費で、Cell Press, メディカルオンラインを購入している。（費用対効果は下図参照）総合図書館の経費で購入しているものはない。

電子ジャーナルの契約は、ほとんどの出版社が発行するすべての雑誌か、大部分のタイトルへのアクセス権を購入する包括的なライセンス契約（パッケージ契約）となっている。

この契約は、アクセス可能なタイトルごとに契約するよりも割安となっているが、契約額は契約開始時の購読額がベースとなっており本学は他大学よりも高く設定されている。併せて、電子ジャーナルの値上げは、冊子よりも抑えられている（プライスカップ）とはいえ、ほとんどの出版社は毎年 5%以上の値上げを行っている。

これらの要因と為替（円安）の動向から電子ジャーナルの購読維持が財政状況から困難と判断し、平成 27 年度より Elsevier 社 ScienceDirect をトランザクション契約方式（Pay Per View）に移行した。

電子ジャーナルの費用対効果

電子ジャーナル	予 算	契約金額(万円)			アクセス件数			アクセスコスト(単価)		
		H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
ScienceDirect	コア	4,804	5,098	3,695	78,526	88,589	55,951	612	575	660
Springer LINK	コア	562	712	778	12,447	16,950	12,148	452	420	641
Nature(本誌のみ)	コア	120	127	143	2,582	3,160	3,105	465	401	460
Science Online	コア	51	64	74	1,555	1,499	1,814	331	426	409
ACM	サブ総	49	82	97	265	219	250	1,852	3,727	3,890
ACS	サブ総	496	627	723	16,896	17,627	17,142	294	356	422
APS	サブ総	80	103	118	1,998	1,798	2,094	399	572	566
Academic Search Complete	サブ総	103	106	109	1,809	2,708	2,582	567	390	421
Nature Group	サブ医	576	574	572	7,326	6,978	7,610	786	823	751
EBSO (MEDLINE Complete)	サブ医	117	-	-	1,948	-	-	603	-	-
ProQuest (HMC)	サブ医	-	140	161	-	632	795	-	2,212	2,021
図書館共通経費 (合計)		6,958	7,633	6,470						

電子ジャーナル	予 算	契約金額(万円)			アクセス件数			アクセスコスト(単価)		
		H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
Applied and Physics Letters	工学部	38	56	64	2,436	2,039	2,325	156	258	274
IEEE (ASPP)	工学部	423	547	194	4,065	3,684	1,806	1,042	1,484	1,074
Journal of Applied Physics	工学部	53	73	88	1,479	1,087	1,211	356	668	728
工学部共通経費(合計)		514	676	346						
Cell Press (Elsevier)	医学部	159	165	196	2,833	2,828	3,700	562	582	530
メディカルオンライン	医学部	171	175	175	29,658	34,257	34,991	57	51	50
医学図書館経費(合計)		330	340	371						
総 合 計		7,802	8,649	7,187						

電子ジャーナル・電子ブック

[学認について](#)
[無料トライアルのご案内](#)
[データベース利用上の注意](#)

電子ジャーナル・電子ブックタイトル検索へ

Academic Search Complete (EBSCOhost)

EBSCOが提供する人文、社会、自然、医療、理工等、総合分野を網羅した全文データベースです。

収録コンテンツは学術雑誌(査読誌)を中心とした約8,600誌の全文で収録されています。雑誌以外にも書籍、百科事典、政府文書等、幅広い文献を全文で出収録しています。

ACS

ej:化学系分野-15タイトル

Anonymous Security Systems and Applications

APS Journals

ej:物理学分野-9タイトル

Dragonsource (龍源)

中国の書店で販売する週刊誌・月刊誌等々の最新雑誌のe-Magazineのオンライン版総合データベース

科学技術と一般科学193タイトルが利用できます。

電子ジャーナル・電子ブック検索画面

2.2.2 文献データベース

文献データベースは、電子ジャーナルと共に学術情報基盤として整備・充実し、安定的に提供することが教育研究を推進する上で必要不可欠なものとなっている。

そこで、平成 22 年度から附属図書館運営委員会、総合図書館 WG、医学図書館運営小委員会、電子ジャーナルおよび文献データベースのリスト並びに利用状況について報告し、現状認識を図っている。

文献データベースの購入は、附属図書館共通経費で SciFinder（半額工学部経費）、JCR Science Edition を購入し、大学の間接経費で Web of Science を購入している。これらのデータベースは、両キャンパスからアクセスすることができる。

総合図書館経費では、CiNii を定額アクセス契約で購入している。医学図書館経費では、医学・看護学系データベースである医中誌 Web、CINAHLwith full text、EBMR、UpToDate、今日の診療 Web 版、最新看護索引 Web を購入している。

文献データベースの利用状況

文献データベース	予 算	契約金額(円)			アクセス件数		
		H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
SciFinder	図書館共通・工学部	4,980,000	5,224,000	5,563,560	15,503	16,414	19,811
JCR Science Edition	図書館共通	731,112	878,610	1,056,630	57,880	65,301	69,149
Web of Science	*事務共通 H24-27	3,391,520	4,524,628	5,786,176	6,967	8,701	14,089
MathSciNet	工学部	874,349	1,161,349	1,408,435	2,869	1,879	3,111
医中誌 Web	医学部	370,650	379,080	379,080	33,795	38,985	42,216
CINAHL with full text	医学部	1,116,000	1,205,000	1,265,000	619	1,325	1,193
EBMR	医学部	448,549	549,192	640,719	704	346	582
UpToDate	医学部	1,932,176	2,236,100	2,392,627	7,820	7,841	7,680
今日の診療 Web 版	医学部	322,560	331,776	331,776	4,099	5,636	6,154

2.2.3 学術機関リポジトリ・地域共同リポジトリ

本学教職員の学術研究成果は、インターネットを介して世界中に発信するため、「福井大学学術機関リポジトリ (UFR)」を立ち上げ、平成 19 年 9 月に一般公開した。平成 27 年度末現在のコンテンツ収録数は 8,077 件、全文ダウンロード数は 23,317 件となっている。

「福井県地域共同リポジトリ (CRFukui)」は、福井県内 7 大学、高専、県立図書館、県文書館の参加を得て平成 21 年 3 月に一般公開した。平成 27 年度に福井県郷土誌懇談会の参加があり、コンテンツの収録数は、平成 27 年度末現在で 12,193 件となっている。うちハーベストによる本学の収録数は 8,077 件である。また、全文ダウンロード数は 73,345 件となっている。

学位規則 (昭和 28 年文部省令第 9 号) が改正され、平成 25 年 4 月 1 日から施行されたのに伴い、博士論文は「やむを得ない事由」がない限り機関リポジトリで公開されることとなった。

このことにより機関リポジトリ用メタデータフォーマット「junii2」の改訂が行われた。



学術機関リポジトリ検索画面



地域共同リポジトリ検索画面

各リポジトリ登録件数とダウンロード数

リポジトリ	件数	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
学術機関リポジトリ	登録数	791	354	672
	累計	7,051	7,405	8,077
地域共同リポジトリ	登録数	132	183	1,219
	累計	2,714	2,897	4,116
合計		9,765	10,302	12,193
全文ダウンロード		146,897	48,216	73,345

3. 図書館活動

3.1 利用時間と貸出

3.1.1 利用時間

総合図書館では、以前から要望のあった開館時間について、閉館時間を2時間延長する試行を平成25年度に期間限定で実施した。平成26年6月から授業期間は閉館時間を22時、無人開館時間も平日を1時間早めた。その結果、授業期間の開館時間は平日6時から22時まで、土曜日・日曜日は9時から16時まで実施している。無人開館は平日6時から9時までとし、土曜日・日曜日は9時から13時まで、大学構成員は職員証、学生証（磁気カード）を用いた自動入退館システムにより実施している。なお、無人開館時は、利用者の安全のため防犯カメラを設置している。また、利用頻度の高い前期試験期、後期試験期1週間前からの土曜・日曜について開館時間を2時間延長し、13時から18時までとする延長開館も定着し継続実施している。これにより、平成25年度と平成27年度の入館者数の延べ人数を比較すると2万4千人程度増加している。

医学図書館では、平日9時から20時まで、土・日・休日は10時から17時まで開館（有人開館）をしている。また、総合図書館と同様に、職員証、学生証（磁気カード）を用いた自動入退館システムを導入し、申請を行った大学構成員は有人開館時間外も利用できる体制をとることにより、24時間利用を提供している。なお、利用者の安全と施設の保全を図るため防犯カメラを設置している。

3.1.2 貸出

学内者の貸出冊数及び貸出期間は、総合図書館が図書10冊以内2週間、視聴覚資料5点以内1週間、教養雑誌3冊以内1週間、教科書3冊以内3日間である。医学図書館は、図書、視聴覚資料を併せて5点以内1週間の貸出である。なお、両図書館とも休業期間には、長期貸出を行っている。また、自動貸出返却装置を設置しているため、いつでも貸出・返却が可能である。

総合図書館では、自動貸出返却装置を1階と3階（3階は貸出専用）に置き、利用者の利便性をはかっている。

学外者への貸出は、総合図書館が図書3冊1週間であり、医学図書館は、図書2冊1週間である。両館とも、本学の生涯学習市民開放プログラム受講生や医療実習生等、短期でも学内で学習・研究に関わる場合は学内者相当の扱いとしている。

総合図書館では、3階閲覧室においては就職関連図書コーナーの設置(写真1-1)、小説コーナーの著書見出しの作成、2階閲覧室では雑誌の新着コーナーの設置(写真1-2)、空き書棚を利用しての電子ブックの紹介などをし、利用者の利便性を図っている。また、新着図書コーナーに教員推薦図書をコメント付きで展示したり、ミニテーマ展示、図書館サポーターによる図書の展示を行い、本を紹介している。コメント付きの教員推薦図書の紹介は大変好評である(写真1-3)。このほか貸出用ノートPCやiPad、貸出用ホワイトボードも整備している。

医学図書館では、ミニテーマ展示を複数作り、関係書籍を展示することにより、新着資料だけではなく既存資料に触れる機会を増やし新たな需要を作り出している(写真2-1, 2-2)。また、財団法人福和会寄贈により設置された「心とからだの本コーナー」の充実を図り、病気や心、身体についての平易な解説書を集め、学生並びに患者さん等一般利用者にも広く利用に供している。(写真3) このほか貸出用ノートPCやプロジェクタも整備している。

入館者と貸出

			平25(2013)	平26(2014)	平27(2015)
総合図書館	入館者数	学内者	154,189	177,993	177,820
		学外者	5,399	3,199	4,466
	館外貸出	学内者	35,836	35,183	39,395
		学外者	1,006	1,212	1,798
医学図書館	入館者数	学内者	171,367	169,473	160,129
		学外者	4,791	2,054	1,907
	館外貸出	学内者	20,240	21,281	20,325
		学外者	687	573	691
合計	入館者数	学内者	325,556	347,466	337,949
		学外者	10,190	5,253	6,373
	館外貸出	学内者	56,076	56,464	59,720
		学外者	1,693	1,785	2,489



写真 1-1 就職関連図書コーナー



写真 1-2 雑誌の新着コーナー



写真 1-3 教員推薦図書の紹介



写真 2-1 ノーベル医学・生理学賞



写真 2-2 学内講演会関連図書展示



写真 3 心とからだの本コーナー

3.2 OPACと遡及入力

総合図書館では、図書館の基本機能である全蔵書（平成 27 年度末現在 約 66 万冊）の目録データベース（OPAC:Online Public Access Catalog, 以下「OPAC」という。）の構築に向けて遡及入力を進めており、平成 19 年度には、一般書の OPAC 登録はすべて終了した。平成 21 年度からは、専門性を必要とする漢籍、和装本の遡及入力を開始し、郷土資料室及び道元文庫の OPAC 登録を完了した。平成 22 年度からは、貴重書室内にある漢籍・和装本の OPAC への登録を開始した。遡及入力対象として明治中期以降の資料 14,000 冊（復刻資料等を含む）及び江戸期・明治初期の資料 6,000 冊（内手書き写本 500 冊）がある。

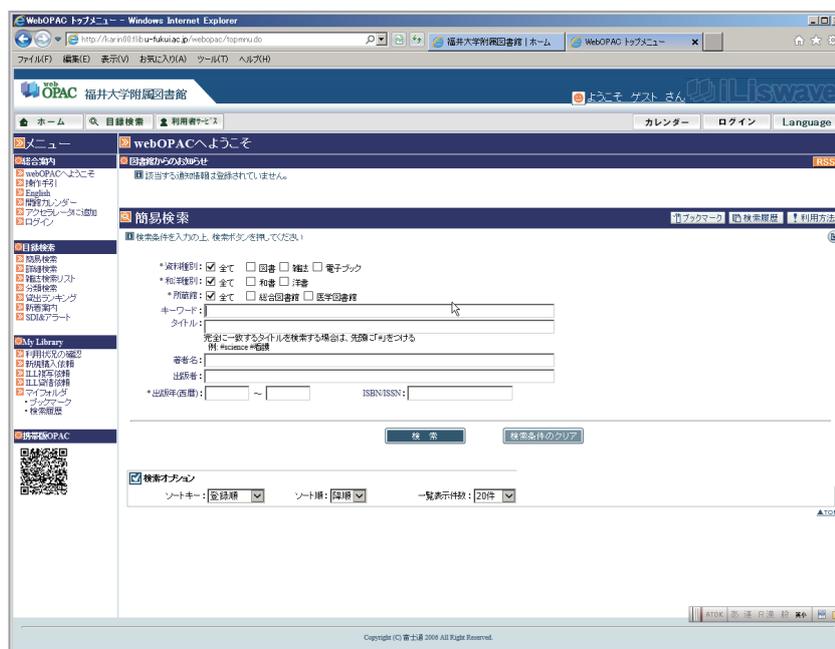
平成 24 年度からは、スチューデント・アシスタント（SA）を雇用することにより、特殊資料整理業務補助（主にリスト作成）として協働作業を行い、OPAC への登録を行っている。

平成 26 年度には、頻繁におこなわれる電子ジャーナルのタイトル変更をすべて正確に反映することは難しく、契約している情報検索ツールであるディスカバリーサービスの機能で電子ジャーナルのタイトルを正確に検索できることから、OPAC による電子ジャーナルタイトル検索については混乱を防ぐために削除した。

また、インターネット資源（Amazon）との連帯により、OPAC 上に図書の表紙画像を表示させる機能を追加した。

医学図書館は図書・雑誌ともすべて OPAC に登録されている。

OPAC のデータについては、未だ両図書館の目録データにおいて整合性がとれていないものが発見されている。目録の品質向上は、検索効率や精度の向上に直結し、利用に反映するものであるため、継続的に修正作業を行っている。



OPAC検索画面

3.3 広報活動

3.3.1 学術情報ポータルとしてのホームページ

平成 27 年 4 月に図書館のホームページをリニューアルし、附属図書館の情報ポータルサイトとして 4 つの機能を中心に充実を図ると共に、アンケート機能の追加とスマートフォン対応をおこない、より使いやすくした。

1. 情報探索機能：ディスカバリーサービス，OPAC，県内図書館横断検索，文献データベース，電子ジャーナル，電子書籍など充実。
2. 広報活動機能：データベース講習会や展示等の図書館イベント情報の充実。
3. 個別対応機能：図書購入依頼，文献複写・貸借依頼，予約・更新などの充実。
4. 情報発信機能：本学の成果物等をデジタルコンテンツ加工し，発信などの充実。

8 大学が参加した「大学図書館電子学術書共同利用実験」を経て，平成 25 年 10 月に貸出・返却型電子学術配信サービス「BookLooper」を導入した。学術認証フェデレーション(学認)を利用すればディスカバリーサービスで検索した電子学術書を PC やモバイル端末から学内学外を問わず，24 時間利用できる環境が整備できた。

また，ディスカバリーサービスも，雑誌名での検索機能追加，ジャパンナレッジ(国内最大級の辞書・辞典データベース)の検索機能の表示など機能を追加しており，本学の情報ポータルとしての機能を充実させている。

BookLooper 画面

2 度数分布表から特徴をつかむ

1 相対度数

ヒストグラムというグラフによって，スクラムのクラスとケンちゃんのクラスそれぞれの数学のテストの得点の分布は、ひと目でわかるようになりましたね。

階級(点)	スクラムのクラス(人)	ケンちゃんのクラス(人)	学年全体(人)
1～10	0	2	8
11～20	2	4	15
21～30	2	3	17
31～40	3	5	20
41～50	7	6	28
51～60	8	5	38
61～70	9	4	32
71～80	5	4	22
81～90	4	3	14
91～100	0	4	6
合計	40	40	200

さて、この度数分布表を見て、スクラムやケンちゃんのクラスの成績が、学年全体の中でどうだったのか、すぐにおかるといえるでしょうか。51～60点の人が最も多いことや、ヒストグラムにすると、その階級をポイントにして一つの山になりそうなことはわかりますが、それ以上のことはちょっとわかりにくいですね。1クラスの人数は40人で、学年全体は200人という人数が異なるので単純には比べられないから、ですね。

2つ以上の人数の異なる業種を比べると、どんな人数であっても全体を1と考える、「割合」を使うとうまくいきそうですね。さっそく実験してみましょう。

まず、スクラムのクラスとケンちゃんのクラスの、各階級の、クラスの人数40人に対する割合を計算してみます。

(各階級の割合) = (その階級の人数) / 40

で求めるので、次のようになりますね。

- ・マーカ機能
- ・メモ機能
- ・付箋機能

3.3.2 展示と刊行物

(1) 展示・イベント

総合図書館では、平成 25 年度以降は展示スペースを学習スペースとして使用する傾向が強くなったため、大きな展示からミニ展示へ移行していった。平成 25 年度は従来のような展示企画をしている。平成 25 年度は、「グリフィスと福井 増補改訂出版記念展」ではパネル展示ならびに実物展示として「青い目の人形」「異人館の鍵」が展示され、11 月には講演会も開催した。また、「ピーターラビット写真展」や「図書館員・書店員が 20 代にすすめる本」を県立図書館と協力して開催した。平成 26 年度～平成 27 年度はミニ展示が中心となっている。中でも図書館サポーターと協働企画の展示を実施しており、特に 1 階入館ゲート近くの展示図書は多くの学生が本を手にとり閲覧している。3 階閲覧室には新着資料のほかに、年に数回テーマを設け図書の展示を行っている。平成 26 年度にはサポーター企画による「私を借り展」やポップコンテスト、平成 27 年度には「人気作家ガチバトル」として貸出冊数バトルや図書館サポーターによる「クイズ&スタンプラリー」を実施した。郷土資料室前の展示ケースでは所蔵する貴重書を中心に年に数回の割合いで展示を行っている。

大学の地域公開イベント“きてみてフェア”の図書館企画として、ペーパークラフトや「和装本を作ろう」を実施し、どれも好評である。平成 26 年度には除籍図書のリユース市を開催し、盛況だった。また、「自由図書館」と称し、使わなくなった教科書、参考書、雑誌はもちろん新書、漫画などを寄贈してもらい無期限で貸出しを実施している。

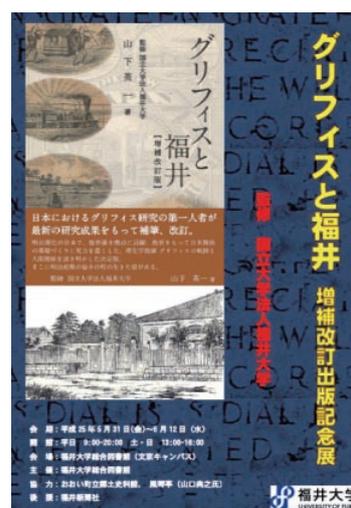
[平成 25 年度]



「ピーターラビットの世界」写真展

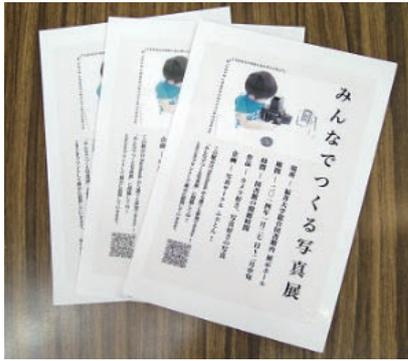


図書館員・書店員がすすめる
20代に読んでおきたい本



「グリフィスと福井」
増補改訂出版記念展

[平成 26 年度]



みんなで作る写真展

総合図書館にようこそ

期間 2014.4.7(月)～2014.5.9(金)
 時間 平日 9:00～20:00
 土日祝日 13:00～16:00
 場所 福井大学総合図書館1F展示ホール

一展示—
 総合図書館へようこそ
 図書館のプロアマップを使って利用ガイドより詳しく図書館を紹介いたします。

図書館サポーター展示…「福大生の日常」
 本を楽しむ会…本棚展示
 一総合図書館クイズラリー—
 館内クイズを解いてスタンプを集めてください。カウンターにスタンプを押して持って行くと図書館オリジナルグッズがもらえます。

一図書館ツアー—
 15分程度、館内と書庫の中を案内します。
 下記の時間に図書館カウンター前に集合してください。

日時 4月9日(水) 12:30～, 16:30-
 4月10日(木) 12:30～, 16:30-

新入生企画
「総合図書館にようこそ」



展示ケース
「絵はがき」でみる昔の福井の風景



展示ケース
「越前若狭いろいろはかるた」



サポーター企画
秋の眠れない夜特集(ポップコンテスト)



サポーター企画「私を借り展」

福大生の日常

新入生の皆さんへ入学おめでとうございませう！
 大学院やアルバイトなど福井大学生に「中かき」のあるテーマにあわせて「タイムマシン」を展覧してはばき
 本ごしの楽しみながらどうぞご活用ください！
 Presented by 図書館サポーター

サポーター企画「福大生の日常」



学生企画「心のキャンパスを彩る不思議な生き物」



サポーター企画 季節の本「雪」

[平成 27 年度]



展示ケース江戸時代の餅菓子のレシピ集
「餅菓子即席増補手製集」



展示ケース 「天文図解・夏の星空」



人気作家ガチバトル
東野圭吾 vs 伊坂幸太郎の貸出冊数バトル



サポーター企画 季節の本 「水」



サポーター企画
図書館クイズラリー



サポーターと協働企画 季節の本 「冬」& アドベント
カレンダークリスマスポップツリー



福井大学きてみてフェア
「和装本をつくろう」

医学図書館では、平成 19 年度から、エントランスホールを使い、学内講演会や時事問題等のテーマに応じた展示を行っており、所蔵資料を多方面からの切り口で紹介することにより新たな需要を産み出している。平成 27 年度には、医学部教員の研究に関連して市民から借用した、戦時中の義手を関連図書とともに展示し、戦争と障害について考える機会を提供し好評を得た。関連図書については県内公共図書館との相互貸借制度を利用し展示の充実を図った。この展示は、福井新聞や日刊県民福井への新聞掲載と福井放送によるテレビ放映がされ、大きく取り上げられた。

また、留学に関心のある学生が増えてきていることから、国際課から留学関係のポスターや資料の提供の協力を受け、留学関係情報コーナーを設けた。留学や英会話関係の図書について国際課の推薦を受けながら収集している。

この他、正月、ハロウィーン等の季節行事に合わせミニイベントを催している。平成 27 年度には医学部管弦楽団によるクリスマスコンサートをエントランスホールで開催し、来場者に簡易版図書館利用案内を配布し、図書館利用方法のPRを図った。また、エコ活動として、リユースコーナーの設置、小さなゴミ入れ用にチラシで作った箱を配っている。

[平成 25 年度]



かるた展



本のリユース市

[平成 27 年度]



世界エイズデー



ノーベル医学・生理学賞



企画展示「戦時中の義手」



留学関係情報コーナー



医学部管弦楽団によるクリスマスコンサート

企画展示(講演会含む)

年度	総合図書館			医学図書館				
平成25	1	企画展	新入生企画「知ってほしい図書館のココ」	2013/4/5-5/24	1	ミニ展示	WHO AM I?日本の近代名著の触れてみませんか?	2013-5/7-5/20
	2	企画展	グリフィスと福井増補改訂出版記念展	2013/5/31-6/12	2	ミニ展示	国際協力師という仕事	2013/11/1-11/15
	3	企画展	H25教科書展	2013/6/14-7/11	3	ミニ展示	かるた展～筋肉カルタ	2014/1/8-1/22
	4	企画展	行ってみんげ?知の泉展	2013/08/9-10/04	4	ミニ展示	教員着者を集めました	213/10/24-11-10
	5	企画展	ピーターラビット写真展 本でみるイギリスの旅	2013/10/20-10/31	5	オープンキャンパス	医学図書館紹介	2013/8/8
	6	企画展	グリフィスと福井増補改訂出版記念講演会	2013/11/17				
	7	企画展	図書館員・書店員が20代にすすめる本	2013/11/20-12/11				
	8	企画展	みんなでつくる写真展	2014/01/27-2月中旬				
	9	きてみてフェア	ペーパークラフトをつくろう					
平成26	1	企画展	新入生企画「図書館にようこそ」	2014/4/5-5/9	1	ミニ展示	これから論文を書く方へ	2014/4/22-5/15
	2	企画展	H26教科書展	2014/6/13-7/10				
	3	企画展	私を借り展	2014/8/8-9/30				
	4	企画展	秋の眠れない夜特集	2014/10/8-11/30				
	5	ミニ展示	心のキャンパスを彩る不思議な生きもの	2014/10/16-10/29				
	6	ミニ展示	論文・レポートの本紹介	2014/11-2014/12				
	7	ミニ展示	季節の本テーマ"雪"(サポーター)	2015/1-2015/3				
	8	郷土資料室前 ガラスケース	往来物	2014/6/13-9月中旬				
	9	郷土資料室前 ガラスケース	絵葉書でみる昔の福井	2014/10/1-12月上旬				
	10	郷土資料室前 ガラスケース	越前若狭いろはかるた	2014/12/10-3月中旬				
	11	きてみてフェア	和装本をつくろう					
平成27	1	郷土資料室前 ガラスケース	餅菓子即席増補手製集	2015/4/1-7/1	1	ミニ展示	2015年 ノーベル医学・生理学賞	2015/10/9-10/31
	2	郷土資料室前 ガラスケース	天文図解・夏の星空	2015/7/21-9/25	2	企画展	戦時中の義手ー戦争と障害を考える	2015/11/24-12/4
	3	郷土資料室前 ガラスケース	グリフィス書状展示	2015/10/8-11月中旬	3	ミニ展示	世界エイズデー	2015/12/1-12/15
	4	郷土資料室前 ガラスケース	クリスマス展示(絵本と名作)	2015/11/30-12/25				
	6	ミニ展示	季節の本テーマ"新"	2015/3/19-4/24				
	7	ミニ展示	H27教科書展示	2015/6/19-7/16				
	8	ミニ展示	季節の本テーマ"水"	2015/5/7-6/30				
	9	ミニ展示	季節の本テーマ"祭"	2015/7/6-9月下旬				
	10	ミニ展示	オープンキャンパス"大学の教科書展示"	2015/8/7				
	11	ミニ展示	季節の本テーマ"秋"	2015/10/1-11月中旬				
	12	ミニ展示	季節の本テーマ"冬" アドベントカレンダークリスマスポップ リ(～12/25)	2015/11/25-継続中				
	14	ミニ展示	人気作家ガチバトル 東野圭吾vs伊坂幸太郎の貸出冊数バ トル	2015/07/21-9/30				
	16	ミニ展示	教員推薦図書展示1	2015/10/7-11月上旬				
	17	ミニ展示	Thick Books展示	2015/12/1-12/28				
	18	きてみてフェア	和装本をつくろう					

(2) 刊行物

平成 15 年から発行の図書館報「図書館 forum」を年 1 回刊行して、学内外に配布し、図書館のトピックス、利用案内、各種企画案内、お知らせ等を広報している。

「利用ガイド」については、平成 25 年度にデザインを一新した。利用者が手に取り易いよう、また、学生に見てもらえるように蛇腹山 5 つ折りにし、色も明るくした。また、内容が分かり易くなるように、内容をコンパクトにし、フロアマップも立体的な図にするなどの工夫をした。このほかに、学生便覧、大学案内、情報処理基礎テキスト(Web 版)、医学部広報誌くずりゅう、同窓会報において図書館の案内等に努めている。また、開館カレン

ダー入りのしおりを作成して利用者に提供している。

さらに、平成 25 年度に福井県の郷土資料として、国立大学法人福井大学監修による「グリフィスと福井 増補改訂版」山下英一著を刊行した。



総合図書館しおり
(2 種類)



利用ガイド

(3) その他の刊行物

医学図書館では、「福井大学医学部研究雑誌」(医学部紀要)の編集・発行を、福井医科大学時代の創刊時(平成 12 年度)から担当している。この雑誌は、当初よりピアレビューを行い学術的にも高品質である。

アクセプトされた時点で、プレプリント状態で本学リポジトリにおいてオープンアクセスジャーナルとして公表しており、冊子は年 1 回刊行し、学外の希望機関には郵送している。平成 25 年度からは、メディカル・オンラインと契約し、こちらからもアクセスできるようになった。平成 27 年度からは、医学中央雑誌刊行会と契約し、著者抄録がそのまま収録されることとなり、抄録掲載までがスピーディに行われることとなった。

3.4 地域との連携

(1) 閲覧・貸出サービス

学外からの利用者への開放として、閲覧、複写及び貸出サービスを両図書館とも行っている。平成 27 年度の学外者の来館数は延べ 6,373 人（総合 4,466 人，医学 1,907 人）で、貸出冊数は延べ 5,967 冊（総合 4,016 冊，医学 1,951 冊）である。本学の卒業生，生涯学習市民開放プログラム受講生や病院実習生等には学内者相当の扱いとしている。

(2) 検索サービス

来館利用の学外者は，両館の検索用パソコンから OPAC，文献データベース，電子ジャーナル等にアクセスでき，学外者の求めに応じてレファレンスや利用指導を行っている。

(3) 横断検索システム

平成 19 年から福井県内図書館の相互貸借が開始され，本学図書館の図書が参加機関を通して遠距離の県民でも利用できるようになった。貸出件数は，平成 25～27 年度の 3 年間で 573 冊（総合 493 冊，医学 80 冊），年平均 191 冊である。このサービス開始当時の 124 冊と比較すると大きく増加している。また，借受冊数は，平成 25～27 年度の 3 年間で 1,593 冊（総合 921 冊，医学 159 冊），年平均 531 冊である。これはサービス開始当時の 91 冊と比較すると格段に増加している。横断検索システムの利用方法については，オリエンテーションや図書館情報リテラシー講習会，カウンターでの対応時に広報を行っている。また，県立図書館が作成した，相互貸借啓発ポスターや医療従事者向けコーナーのポスター掲示を行い，学生や教職員に有効活用されている。

(4) 連携展示

県立図書館において，総合図書館で行った学生企画の「心のキャンパスを彩る不思議な生き物」の展示（平成 26 年度）をはじめとし，ティーンズコーナー特集「ふくいの大學生なう」として，県内各高等教育機関から所属学生が選んだ図書を展示（平成 28 年度）した。本学からは，総合図書館のラーニングアドバイザーが選んだ図書や医学図書館の学生図書委員によるブックハンティング選定図書を展示し，大学生が専門分野のみならず幅広い興味を持って読書活動を行っていることを PR した。同時に，「ふくいの学校案内」コーナーにおいて，オープンキャンパスのチラシ等の配布を行い，県民に対し大学の理解を深めた。

(5) その他

近年，中高生やその保護者に加え，留学生確保を目的とした国外からの大学訪問が増え，図書館見学が行われるようになり，本学の教育力，研究力をアピールする内容としている（平成 27 年度・タイ国から 2 度（10 名，15 名）の訪問）。また，オープンキャンパスにおいても，各館それぞれの設備・環境について理解を深めてもらい，中高生が将来進路を決める上で参考となるよう，大学での学び方について理解できるような内容としている。さらに，総合図書館では中学生の職場体験（平成 25 年度～平成 27 年度）を受け入れ，大学の図書館業務の数々を知ってもらう良い機会となっている。



(福井県立図書館作成ポスター)
 連携展示「ふくいの大学生なう」於；福井県立図書館



中学生職場体験



タイ・ブンヤワート高校教員による図書館見学



タイ・カセサート大学付属学校生徒による
 図書館見学

4. 管理運営

4.1 施設・設備の整備と利用状況

4.1.1 建物

附属図書館は、教育地域科学部と工学部のある文京キャンパスに総合図書館をおき、医学部がある松岡キャンパスに医学図書館を配置している。

総合図書館は、1階にラウンジ、郷土資料室、展示ホール、メディアcommons、グループ学習室等を配置し、2階の第一閲覧室には、雑誌コーナー、参考図書コーナー等を配置している。3階の第二閲覧室には、開架書架、教科書コーナー、外国語学習コーナーを配置している。

医学図書館は、1階に雑誌閲覧室、メディアルーム、福井県医学資料室、ラウンジを配置し、2階には図書閲覧室、ブラウジングコーナー、休憩コーナーを配置している。

平成23年度に完成した情報工房グループラボ（14室）は、「学*論*究*創*現（共に学び、論じ、究め、創り、現す）」をコンセプトに協同で情報を活用し、生みだし、発信する活力ある場として活かされることを願って名付けられた。サービス開始以来、自主的なグループ学習及びテュートリアル授業の場として1年中活用されている。

また、この部屋の需要が大幅に伸びたことにより、平成27年度から、情報工房1階の言語開発センターの演習室4室についても、グループ学習や授業用として活用できることになった。

平成25年度には、2階参考図書室の改築を行い、閲覧机を増設してさらなる学習環境を整備した。

情報工房グループラボの利用状況（演習室も含む）

	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
年度別利用総数	4,870	5,371	4,850
月平均利用数	406	448	404

4.1.2 書架・書庫

蔵書数 (平成 27 年度末現在)

区 分	図 書 (冊)	学術雑誌(種)
総合図書館	527, 167	13, 229
医学図書館	131, 125	4, 654
合 計	640, 349	17, 814

総合図書館では、現在の蔵書数は上記のとおりである。しかしながら、この数字は備品として登録した資料の数にあたる。学術雑誌の種類数も多く、その中には未製本雑誌がかなりの量で存在している。それを踏まえると、書庫の狭隘化は常に課題である。毎年の教員の退職による研究室からの大量の返納本を収容するため、その対応策として、汚損・破損図書および重複図書を抜き出し、慎重に除籍準備を進め、平成 26 年度に 4, 331 点の除籍を行った。除籍後は学内の教職員や学生・大学院生を対象にリユース市を実施し除籍本の有効利用を図っている。また、閲覧室や書庫内で資料の移動が必要なときには職員のみならず図書館サポーターの力も借りて、資料の移動をしている。書庫の大型本コーナーでは床置きしてあった大型本を書棚にいれ、整理をおこなった。

書庫だけではなく閲覧室配架の資料も毎年増加するため、過去何年も利用されていない資料を書庫へ移す作業も行っている。



書庫内の大型本



書庫内の雑誌書架 (製本雑誌と未製本雑誌が混在する)



書庫内の図書書架

同じく、平成 27 年度に開架図書全点の蔵書点検を行った。作業は専門業者に委託し、閉館後から深夜にかけての数時間で完了した。業者からの点検データを元に、後処理を行った。また、平成 27 年度には研究室図書をローテーションで点検することとし、教育地域科学部と工学部の該当研究室に蔵書点検を依頼し、実施した。このほか、閲覧室・書庫内の見出しの見直し、書庫内の案内図の配置などを行いサービス向上に努めている。

医学図書館では、平成 22 年度の耐震改修工事によるリニューアルに伴い、閲覧室、メディアルーム及び福井県医学資料室を増築し、さらに平成 24 年度に参考図書室を改修したことに伴い、書架は若干増設されたが、平成 24 年度から開始された附属病院の改修に伴い、各研究室から返却本が年々増加しており、現在も医学図書館の狭隘化は解消されていない。そのため、平成 26 年度に 975 冊、平成 27 年度に 1,962 冊の資料の除籍を行った。除籍後は、学内者向けリユース市を実施し、さらに県内大学図書館や日本医学図書館協会の製本雑誌交換制度を利用して除籍本の有効利用を図っている。



雑誌書架には製本雑誌以外に製本されないままの雑誌が多く配架されており、蔵書数以上のスペースが必要となっている。



書架に入りきらず横積みされた資料

集密書架については、平成 25 年度に全面的なメンテナンスを施し、平成 26 年度と平成 27 年度に修繕工事を行い、利用者の安全を確保している。

平成 26 年度～平成 27 年度にかけ製本雑誌を除く開架図書全点の蔵書点検を実施し、所蔵情報を更新したことで、利用者の資料入手の向上に努めた。

平成 28 年度には、雑誌閲覧室の新着雑誌コーナーに雑誌専用書架を配置し、それまで一般書架に配置し雑誌が折れ曲がることによる傷みがなくなり、資料保管の向上を図った。また、表紙を入口に向けて配架できるようになり、利用者が一目で欲しい雑誌へアクセスできる環境を整えた。さらに、閲覧用ソファを 2 脚配置することにより、ゆったりと雑誌をブラウジングできるようになった。



雑誌閲覧室入口に向けて表紙が見える

4.1.3 その他の設備

総合図書館では節電のため玄関にエアカーテンを設置した（平成 24 年度～）。これにより 1F のカウンター付近への外気の影響が緩和された。また、節電対策として、書庫の照明を人感センサーに変更し、消し忘れを解消することができた（平成 26 年度～）。

館内で利用できる PC は検索用 PC を含めて 30 台設置している。貸出用ノート PC は 10 台だったのを、新機種への更新や iPad も含めて現在は 28 台備えている。貸出用は無線 LAN を使用するようになり、貸出しも増加傾向にある。iPad の保管はいつでも貸出して利用できるよう iPad 用充電ラックを利用している。

1F のメディアコモンでは 1 壁面をホワイトボードに変更し（平成 25 年度～）、また、電子黒板を設置し（平成 27 年度）、グループ学習しやすいよう机や小さいホワイトボードも設置した。試験期などにはグループで学習する学生が多く見られるようになった。このほか、1F ラウンジの新聞をバインダーに挟み込むことをやめ新聞を取りやすく配置し、各階の案内図を掲示するなどして利用向上を図った。

医学図書館では、節電対策として閲覧室をパーテーションで区切り、閑散期は空調エリアを制限した（平成 23 年度～）。この他にも、冷暖房の調節範囲の制限（平成 22 年度～）、蛍光灯の間引き（平成 23 年度）、サーキュレータの稼働（平成 24 年度～）等を行い、現在も継続している。

平成 23 年度から学生用 Wi-Fi サービスが開始され、登録した個人用 PC から学内限定の資料などが見られるようになっており、平成 25 年度からは、各キャンパス限定の資料にも Wi-Fi で対応するため機器を整備して利用サービスを開始した。

また、映像を利用した学習の要望が増え、平成 27 年度にメディアルームの利用者用パソコン 8 台及びグループラボのモニター 6 台を増設し、学修環境の充実を図った。さらに、カウンター及び 2F 図書閲覧室 1 に蔵書検索用パソコンを配置することにより利用者の便を図り、また職員による利用案内がしやすくなった。

平成 27 年度には、言語開発センターのグローバル演習室 4 室をグループラボと同様に使用できるよう松岡キャンパス学務室と協議し、グループラボとしてより多くの利用者が利用できるようになった。

平成 28 年度には、時間外開館用入退館システムを更新し、システムの安定化と利用者情報を登録する際の簡便化を図った。

このほか、医学図書館でも新聞をバインダーに挟み込むことをやめ、新聞表紙を表に向けて利用者が手に取りやすく配架し、職員の配架作業の簡便化にもつながった。

4.2 組織体制

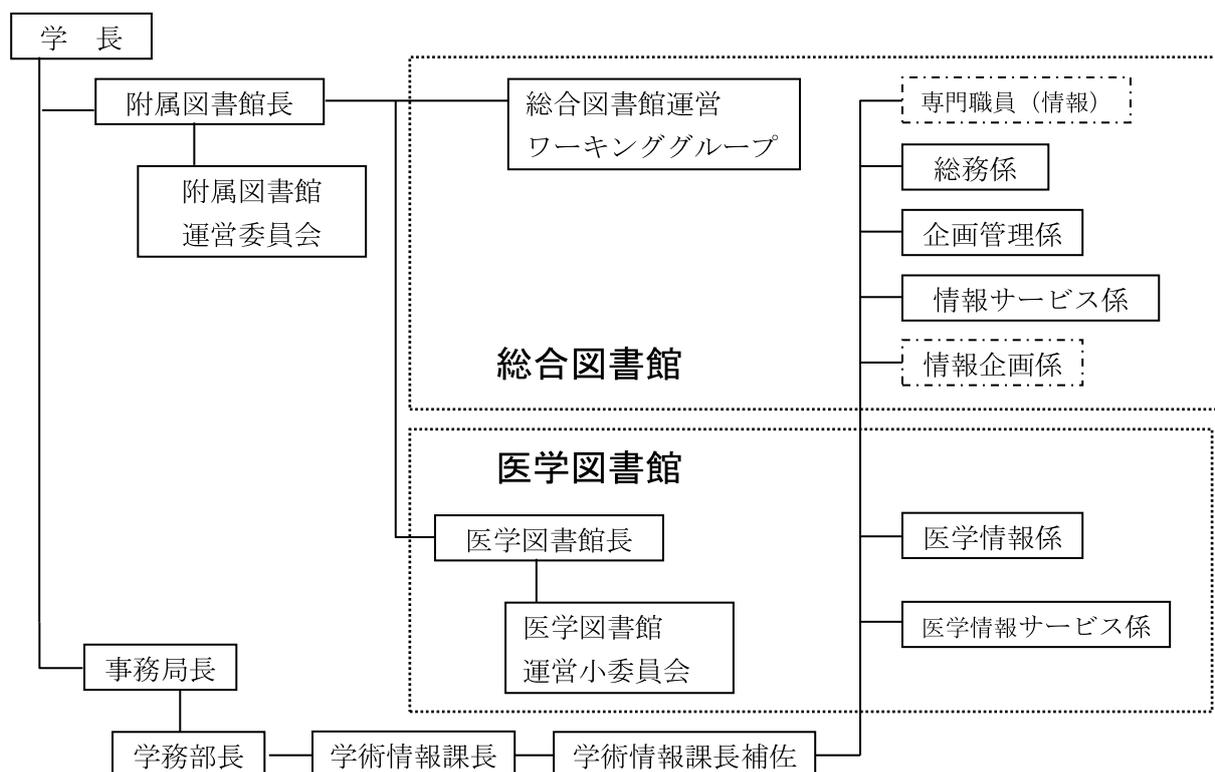
福井大学には、文京キャンパスに総合図書館、松岡キャンパスに医学図書館があり、両図書館を統括する附属図書館長と医学図書館を統括する医学図書館長を置いている。

附属図書館運営委員会は、福井大学委員会規程第5条に基づき、「附属図書館の運営に関する事項」を審議する目的により設置され、館長を委員長に医学図書館長、各学部選出の教員各2名及び学術情報課長を委員として構成されている。

さらに、総合図書館には運営ワーキンググループ（以下「WG」という。）、医学図書館には運営小委員会を設置し、当該キャンパスの運営委員及びその他の学部教員等を委員として、各図書館固有の事項を中心に審議している。

上記の運営委員会及び運営WG・運営小委員会が相互に連携し、審議することでキャンパス間並びに学部間での独自性と協調性を保った図書館運営を実現している。

（平成28年4月1現在）



4.3 予算と経費

図書館の資料費においては、電子ジャーナルや文献データベースに係る経費が膨らむなかで、附属図書館はそれらを学内における学術情報基盤と位置付け、従来からの図書購入費と附属図書館運営費に加え、全学的な図書館共通経費としてその経費を確保してきた。

しかしながら、電子ジャーナルはパッケージ単位でしか契約できないことに加え、毎年の値上がり等から必ずしも経費的に楽観できる状況ではなく、現状の電子ジャーナル等の購入を継続する場合は、学生用図書を中心としたその他の資料の充実が困難となってきた。

このため附属図書館では、効率的な予算執行を図るため、「2012年以降の電子ジャーナル維持継続のための方針」を定め、以下のことを基本方針とした。

1. 全学で利用するコアジャーナルは図書館共通経費とする（附属図書館運営委員会審議）。
2. 全学で利用するサブコアジャーナルは図書館共通経費とする（各図書館委員会審議）。
3. 学部共通で利用する電子ジャーナルは学部経費とする。

ただし、各目安額より不足額が生じた場合は各図書館経費や学部経費等で補填する又は見直しを行うことにした。この方策により当分の間は継続できるものと考えていたが、資料費の値上がり、円安、消費税増税により、学長、各学部から平成26年度に限り600万円の補填を得た。

しかしながら、平成27年度以降の電子ジャーナル等の購入については、全学共通経費よりこれ以上の経費を捻出することは困難であることから、第35回附属図書館運営委員会（平成26年11月開催）において、電子ジャーナルの大幅見直しを行うことを決定した。平成27年度より、Elsevier社のScienceDirectをこれまでのフリーダムコレクション契約から必要とする論文をダウンロード入手できる前払トランザクション（PPV:Pay-Per-View）契約へと見直し、大幅な経費節減（前年比1,200万円減）を図った。また、平成28年度よりDeepDyve社の論文閲覧サービスを開始し、より安価での論文入手のためのサービス向上を目指している。このDeepDyve社が提供する電子ジャーナルは利用者が自由に閲覧することができて、特徴として「読みたい論文をモニタ上に表示して読む」という、「論文閲覧」サービスとなっている。今後、論文入手をめぐるこの種のサービス自体の有用性を評価することにより、本学における資料整備方針を策定することが必要と考える。

また、両図書館に配分される運営費予算のなかで、清掃費やエレベータ保守費、光熱水料費等を負担しているが、年々の予算削減と増改築後による維持管理費の上昇も資料費を圧迫する一因となっている。

4.4 自己点検評価体制

今回の自己点検は平成 25 年度～平成 27 年度の 3 年間の自己点検評価を行うために、平成 18 年 12 月に制定した「福井大学附属図書館自己点検評価小委員会要項」に基づき、平成 27 年 12 月に附属図書館運営委員会において、附属図書館長、医学図書館長、学部から選出された運営委員会委員各 1 名、学術情報課長からなる自己点検評価小委員会を設置した。この小委員会のもとに実務作業を行う学術情報課の課長、課長補佐、係長からなる自己点検評価専門部会を発足させ、自己点検評価の実施体制を整備することで、平成 29 年 3 月に自己点検評価報告書を発行した。

自己点検評価報告書は、平成 14 年 3 月 14 日に法人格取得問題に関する附属図書館懇談会図書館評価指標WGが作成した「大学図書館における評価指標報告書 (Version 0)」を参考にするとともに、「福井大学学内共同教育研究施設等における自己点検評価基準」を念頭において作業を進めた。また、利用者サービスを中心としたアンケートを実施し、特に定性的評価のためのデータとした。図書館統計をもとに定量的評価も行った。

自己点検評価小委員会委員名簿

附属図書館長 (工学部)	末 信一郎	繊維先端工学専攻
医学図書館長 (医学部)	佐 野 和 生	歯科口腔外科学
委 員 (教育学部)	松 本 智恵子	理数教育講座
委 員 (医学部)	稲 谷 大	眼科学
委 員 (工学部)	吉 田 俊 之	情報・メディア工学専攻
委 員 (国際地域学部)	田 村 容 子	国際地域学科
委 員 (附属図書館)	藤 本 康 宏	学務部学術情報課長

自己点検評価専門部会員名簿

学術情報課長	藤 本 康 宏
学術情報課長補佐	西 野 正 敏
総務係長	酒 井 達 也
企画管理係長	久 保 智 靖
情報サービス係長	栃 川 仁 美
医学情報係長	水 上 満 雄
医学情報サービス係長	清 水 史 子

■自己点検評価表

【平成28年3月現在】

今回の評価は、「福井大学学内共同教育研究施設等における自己点検評価基準(平成18年8月29日評価委員会決定)」に沿って行った。

各評価基準は、次の4段階とした。
 S=非常に優れている。
 A=優れている。
 B=おおむね標準的である。
 W=努力が必要である。

番号	自己点検評価項目	参照ページ	評価 (平成25～27年度)	評価理由
	2. 利用支援			
	2.1 教育支援			
	2.1.1 資料の収集・整備			
1	選書方法	p.6	A	選書方法として、教員による推薦、リクエスト受付、ブックハンティング、図書館員による選書をおこなっており、利用者の希望を選書に反映させている。
2	シラバス	p.7	A	シラバスに記載された図書は、毎年漏れなく購入しており、また利用の多い図書については、あえて複数冊数揃えて学生利用の便宜を図っている。
3	電子資料	p.7	S	全国に先駆けて貸出・返却型電子書籍配信サービスBookLooperを導入して、インターネット上で利用者は本を借りる、返却するというこれまでの書籍と同様なイメージで電子書籍の利用が可能となった。
	2.1.2 図書館利用指導			
4	授業支援	p.9 ～ p.10	A	講義に演習を盛り込み、実践的な内容で利用者にわかりやすい内容となっている。また、講義の感想や満足度をチェックし、内容の見直しを図っている。
5	LAに関すること	p.9	B	質問に来た学生の多くが回答内容に満足しており、ラーニングアドバイザーの対応についても満足している。ラーニングアドバイザーは時間をかけて丁寧な対応をするよう努めているが、さらなる活動の充実と発展を考えていく必要がある。
6	利用講習会	p.9 ～ p.10	A	総合図書館では、利用促進のためジャパンレヅジLIB、Web of Science、ScFinderの利用講習会をおこなっており、特に工学系のWeb of Science、ScFinderは毎回、関係の学生、院生の受講が多数ある。医学図書館では、講習会の開催対象を看護部や講座事務担当者に広げ、また、海外講師による講習会を開催することで利用者の語学学習へのモチベーションの向上に寄与している。さらに、インターネット講習会を取り入れ、開講回数を増やし、利用者がいながらにして受講できる環境を整えている。
	2.1.3 図書館間相互貸借 (ILL : Inter Library Loan)			
7	ILL	p.11 ～ p.12	S	図書館内外の様々な情報資源を単一のインターフェースで検索・閲覧可能にする情報探索サービス「ディスカバリーサービス(EBSCO社)」(図1)を導入したことにより、一度の検索で、各電子ジャーナル・本文PDFファイルへのアクセスの可否及び学内の所蔵情報にたどりつきやすくなり、不要な学外文献依頼が減少している。

番号	自己点検評価項目	参照ページ	評価 (平成25～27年度)	評価理由
	2.2 研究支援			
	2.2.1 電子ジャーナル			
8	資料整備	p.13 ～ p.14	W	平成27年度よりElsevier社ScienceDirectをトランザクション契約方式(Pay Per View)に移行, ACSを46誌から15誌に, Natureを10誌から6誌に契約見直しを行った。できる限り研究者の利用に影響が少ないよう, 値上がり, 為替の変動に対応しているが, 今後の整備方針を立てる上で予算獲得に努める必要がある。
	2.2.2 文献データベース			
9	資料整備	p.15	W	文献データベースの契約金額は値上がり, 為替の変動で高騰が続いており, 同時アクセス数の制限を行うなどして契約金額を抑えてきた。今後は, 研究者が必要とする文献情報が効率よく取得できるよう文献データベースの見直しを行うと同時に予算獲得に努める必要がある。
	2.2.3 学術機関リポジトリ・地域共同リポジトリ			
10	地域共同リポジトリへの登録・参加	p.16	A	平成27年度に新たに「福井県郷土誌懇談会」の参加を得て, 参加機関が11機関となった。
11	博士論文登録	p.16	A	学位規則(昭和28年文部省令第9号)の改正に伴い博士論文の機関リポジトリによる公開が義務化された。この対応のため機関リポジトリ用メタデータフォーマット「junii2」の改訂がおこなわれ, 学術機関・地域共同リポジトリともプログラム改修をおこなった
	3. 図書館活動			
	3.1 利用時間と貸出			
	3.1.1 利用時間			
12	開館時間の改善	p.17	S	総合図書館において, 平成26年6月から授業期間は閉館時間を22時, 無人開館時間も平日を1時間早めた。その結果, 平成25年度と平成27年度の入館者数の延べ人数を比較すると2万4千人程度増加している。
	3.1.2 貸出			
13	学習環境の整備	p.18 ～ p.19	A	総合図書館においては, 自動貸出返却装置を1階と3階に置き, 利用者の利便性を図った。また, 就職関連図書コーナーの設置, 小説コーナーの著書見出しの作成, 雑誌の新着コーナーの設置を行い, 利用者の利便性を図った。このほか貸出用ノートPCやiPad, 貸出用ホワイトボードも整備している。 医学図書館においては, 財団法人福和会寄贈により設置された「心とからだの本コーナー」の充実を図り, 病気や心, 身体についての平易な解説書を集め, 学生並びに患者さん等一般利用者にも広く利用に供している。このほか貸出用ノートPCやプロジェクタも整備している。
14	貸出需要の促進	p.18	A	総合図書館においては, 新着図書コーナーに教員推薦図書をコメント付きで展示したり, ミニテーマ展示, 図書館サポーターによる図書の展示を行い, 本を紹介している。コメント付きの教員推薦図書の紹介は大変好評である。空き書棚を利用した電子ブックの紹介などを行い, 利用者の利便性を高めた。 医学図書館では, ミニテーマ展示を複数作り, 関係書籍を展示することにより, 新着資料だけではなく既存資料に触れる機会を増やし新たな需要を作り出している。
	3.2 OPACと遡及入力			
15	登録	p.20	B	全蔵書の目録データベースへの登録は, 図書については完了しており, 和漢書に関してはリスト化は終了しており登録の最終段階である。電子ブックの登録は適宜行っている。

番号	自己点検評価項目	参照ページ	評価 (平成25～27年度)	評価理由
3.3 広報活動				
3.3.1 学術情報ポータルとしてのホームページ				
16	機能の充実	p.21	A	学術認証フェデレーション(学認)による学外からの利用、ディスカバリーサービスの雑誌名での検索機能追加により情報ポータルとしての機能を充実させている。
3.3.2 展示と刊行物				
17	展示	p.22 ～ p.26	S	総合図書館では、平成26年度にサポーター企画による「私を借り展」やポップコンテスト、平成27年度に「人気作家ガチバトル」として貸出冊数バトルや図書館サポーターによる「クイズ&スタンプラリー」を実施。大学の地域公開イベント“きてみてフェア”の図書館企画としてペーパークラフトや「和装本を作ろう」を実施し、いずれも好評を得ている。このほか、除籍図書のリユース市も開催し、盛況であった。また、「自由図書館」と称し、使わなくなった教科書、参考書、雑誌はもちろん新書、漫画などを寄贈してもらい無期限による貸出しを実施している。 医学図書館では、平成27年度に、戦時中の義手を関連図書とともに展示し、戦争と障害について考える機会を提供し好評を得た。関連図書については県内公共図書館との相互貸借制度を利用し展示の充実を図った。この展示は、福井新聞や日刊県民福井への新聞掲載と福井放送によるテレビ放映がされ、大きく取り上げられた。 また、留学に関心のある学生が増えてきていることから、国際課から留学関係のポスターや資料の提供の協力を受け、留学関係情報コーナーを設けた。留学や英会話関係の図書について国際課の推薦を受けながら収集している。
18	刊行物	p.26 ～ p.27	A	平成25年度に両図書館の「利用ガイド」を一新した。利用者が手に取り易いよう、また、学生に見てもらえるように蛇腹山5つ折りにし、色も明るくした。また、内容が分かり易くなるように、内容をコンパクトにし、フロアマップも立体的な図にするなどの工夫をした。
3.4 地域との連携				
19	横断検索システム	p.28	A	貸出件数は、平成25～27年度の3年間で573冊(総合493冊、医学80冊)、年平均191冊である。このサービス開始当時の124冊と比較すると大きく増加している。また、借受冊数は、平成25～27年度の3年間で1,593冊(総合921冊、医学159冊)、年平均531冊である。これはサービス開始当時の91冊と比較すると格段に増加している。
20	連携展示	p.28	A	県立図書館において、総合図書館で行った学生企画の「心のキャンパスを彩る不思議な生き物」の展示(平成26年度)をはじめとし、ティーンズコーナー特集「ふくいの大學生なう」として、県内各高等教育機関から所属学生が選んだ図書を展示(平成28年度)した。本学からは、総合図書館のラーニングアドバイザーが選んだ図書や医学図書館の学生図書委員によるブックハンティング選定図書を展示し、大学生が専門分野のみならず幅広い興味を持って読書活動を行っていることをPRした。同時に、「ふくい中学校案内」コーナーにおいて、オープンキャンパスのチラシ等の配布を行い、県民に対し大学の理解を深めた。
21	中学生の体験受け入れ	p.28	A	総合図書館では中学生の職場体験(平成25年度～平成27年度)を受け入れ、大学の図書館業務の数々を知ってもらう良い機会となっている。

番号	自己点検評価項目	参照ページ	評価 (平成25～27年度)	評価理由
4. 管理運営				
4.1 施設、設備等の整備状況				
4.1.1 建物				
22	学習環境整備	p.30	A	医学図書館のグループラボは、グループ学習、テュートリアル授業用として需要が非常に高く、4室を増加することによって学習環境の改善につながった。
4.1.2 書架・書庫				
23	書架狭隘化の改善	p.31 ～ p.32	A	総合図書館では、汚損・破損図書および重複図書を抜き出し、慎重に除籍準備を進め、平成26年度に4,331点の除籍を行っている。除籍後は学内の教職員や学生・大学院生を対象にリユース市を実施し除籍本の有効利用を図っている。 書庫の大型本コーナーでは床置きしてあった大型本を書棚にいれ、整理を行った。書庫だけではなく閲覧室の資料も毎年増加するため、過去何年も利用されていない資料を書庫へ移す作業も行っている。 平成27年度に開架図書全点の蔵書点検を行った。作業は専門業者に委託し、閉館後から深夜にかけての数時間で完了した。また、研究室図書をローテーションで点検することとし、教育地域科学部と工学部の該当研究室に蔵書点検を依頼し、実施した。 医学図書館では、平成26年度に975冊、平成27年度に1,962冊の資料の除籍を行った。除籍後は、学内者向けリユース市を実施し、さらに県内大学図書館や日本医学図書館協会の製本雑誌交換制度を利用して除籍本の有効利用を図っている。平成28年度には、雑誌閲覧室の新着雑誌コーナーに雑誌専用書架を配置し、それまで一般書架に配置し雑誌が折れ曲がることによる傷みがなくなり、資料保管の向上を図った。また、表紙を入口に向けて配架できるようになり、利用者が一目で欲しい雑誌へアクセスできる環境を整えた。さらに、閲覧用ソファを2脚配置しゆったりと雑誌をブラウジングできるようになった。
4.1.3 その他の設備				
24	節電対策	p.33	A	総合図書館では、書庫の照明を人感センサーへ変更した(平成26年度～)。 医学図書館では、閲覧室をパーテーションで区切り、閑散期は空調エリアを制限した(平成23年度～)。また、冷暖房の調節範囲の制限(平成22年度～)、不要な蛍光灯の間引き(平成23年度)、サーキュレータの稼働(平成24年度～)等を行い、現在も継続している。
25	設備改善	p.33	A	平成25年度からは、各キャンパス限定の資料にもWi-Fiに対応するため機器を整備して利用サービスを開始した。 総合図書館では1Fのメディアコムの1壁面をホワイトボードに変更(平成25年度～)、また、電子黒板(平成27年度)を設置したり、グループ学習しやすい机や小さいホワイトボードを設置した。 医学図書館では、平成27年度にメディアルームの利用者用パソコンを8台及びグループラボのモニタを6台増設し、学修環境の充実を図った。さらに、カウンター及び2階図書閲覧室11に蔵書検索用パソコンを配置して利用者の便を図り、また職員による利用案内がしやすくなった。平成27年度には、言語開発センターのグローバル演習室4室をグループラボと同様に使用できるよう松岡キャンパス学務室と協議し、グループラボとしてより多くの利用者が利用できるようになった。

番号	自己点検評価項目	参照 ページ	評価 (平成25～ 27年度)	評価理由
4.2 組織体制				
26	両図書館の運営の独自性と連携による図書館運営	p.34	A	各学部の図書館機能を損なうことなく、学習・研究支援を行っている。相互に連携し、審議することでキャンパス間並びに学部間での独自性と協調性を保った図書館運営を実現している。 なお、委員会の開催に当たっては、議題によってはテレビ会議やメール審議により、時間的、空間的な効率化を図っている。
4.3 予算と経費				
27	電子ジャーナル購読契約の見直しによる経費節減	p.35	S	平成27年度より、Elsevier社のScienceDirectをこれまでのフリーダムコレクション契約から必要とする論文をダウンロード入手できる前払トランザクション(PPV)契約へと見直し、大幅な経費節減(前年比1,200万円減)を図った。
4.4 自己点検評価体制				
28	『自己点検評価報告書』の発行	p.36	A	3年に1回、本報告書を発行することにより、利用者サービスをはじめとする業務改善を積極的に行っている。

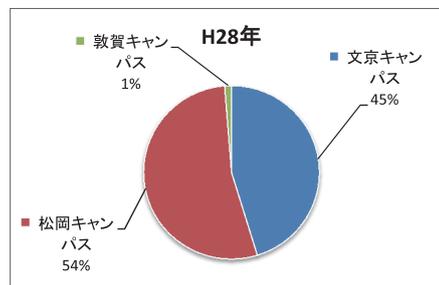
資料編

総合図書館利用者アンケート集計結果

附属図書館(総合図書館)利用者アンケート調査(集計)

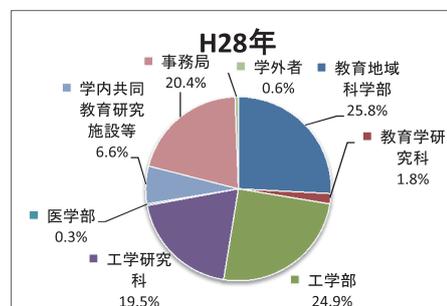
質問1 キャンパスを選択してください。

質問1	H28年
文京キャンパス	324
松岡キャンパス	383
敦賀キャンパス	9
合計	716



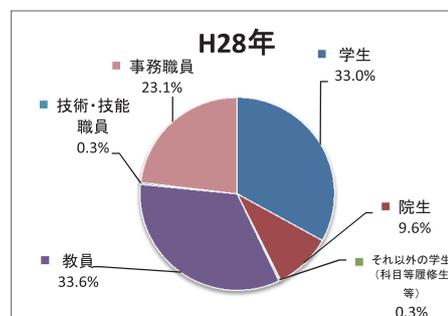
質問2 所属を選択してください。

質問2	H28年
教育地域科学部	86
教育学研究科	6
工学部	83
工学研究科	65
医学部	1
医学系研究科	0
学内共同教育研究施設等	22
事務局	68
学外者	2
合計	333



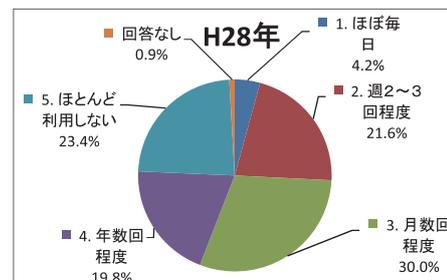
質問3 身分を選択してください。

質問3	H28年
学生	110
院生	32
それ以外の学生(科目等履修生等)	1
教員	112
技術・技能職員	1
医員・研修医	0
コメディカルスタッフ	0
事務職員	77
学外者	0
合計	333



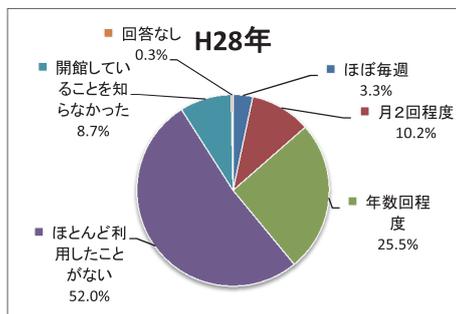
質問4 図書館の利用頻度を教えてください。

質問4	H28年
1. ほぼ毎日	14
2. 週2~3回程度	72
3. 月数回程度	100
4. 年数回程度	66
5. ほとんど利用しない	78
回答なし	3
合計	333



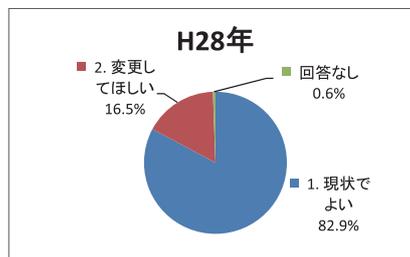
質問5 土曜日や日曜日なども開館していますが、利用したことがありますか？

質問5	H28年
ほぼ毎週	11
月2回程度	34
年数回程度	85
ほとんど利用したことがない	173
開館していることを知らなかった	29
回答なし	1
合計	333



質問6 開館日・開館時間について

質問6	H28年
1. 現状でよい	276
2. 変更してほしい	55
回答なし	2
合計	333



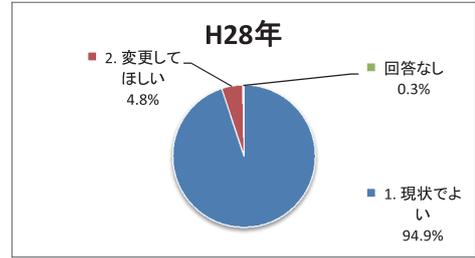
質問7 (質問6で「変更してほしい」を選択された方へ) 具体的にどのように変更してほしいですか？

開館時間の延長
土日祝日の開館時間の延長
テスト期間中の土日の開館時間の延長
休業期間中(春休み, 夏休み)の土曜日の開館
24時間利用
総合図書館: 以前の開館時間に戻してほしい

※主な意見抜萃

質問8 貸出冊数・貸出期間について

質問8	H28年
1. 現状でよい	316
2. 変更してほしい	16
回答なし	1
合計	333



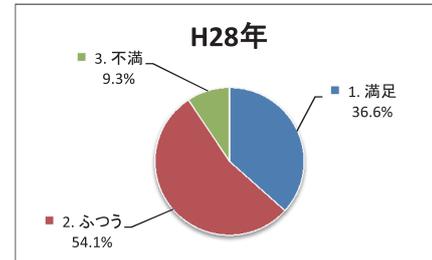
質問9 (質問8で「変更してほしい」を選択された方へ) 具体的にどのように変更してほしいですか？

返却期間の貸出者による選択可能にしてほしい。
教員が借りることができる冊数を、20冊以内、1ヶ月以内とする。ただし予約が入った場合は「2週間から3週間程度」、「予約後1週間以内」に返却する、等と定める。
教員の図書貸出期間を長くしてほしい。2週間では不便を感じる。
教員に対する貸出冊数を増やしてほしいです。
雑誌の貸出期間を長くしてほしい。
2週間の期限がきたことをお知らせするメールを、午後ではなく午前中にしてほしい。

※主な意見抜萃

質問10 館内設備について

質問10	H28年
1. 満足	122
2. ふつう	180
3. 不満	31
回答なし	0
合計	333



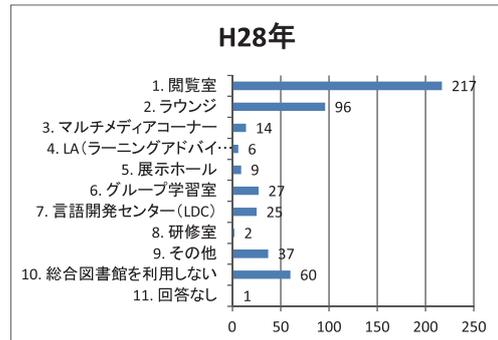
質問11 (質問10で「不満」を選択された方へ) 具体的にどのような点が不満ですか？

自習スペースが少ない。
書庫が寒い暗い。
コンセント対応席を増設してほしい。
トイレの個室が少ない。
2, 3階にも飲食スペースを設けてほしい。
カフェテリアがあるといい。学外から招へいを希望する。
夏場冷房があまり効いていないので暑い。
視聴覚コーナーに扉をつけてほしい。
一階入り口付近の検索用パソコンが利用しにくい。

※主な意見抜萃

質問12 総合図書館(文京C)で、よく利用する施設はどれですか？(複数回答可)

質問12	H28年
1. 閲覧室	217
2. ラウンジ	96
3. マルチメディアコーナー	14
4. LA(ラーニングアドバイザー)コーナー	6
5. 展示ホール	9
6. グループ学習室	27
7. 言語開発センター(LDC)	25
8. 研修室	2
9. その他	37
10. 総合図書館を利用しない	60
11. 回答なし	1
合計	494



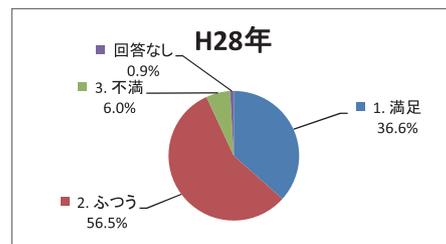
質問14 (質問12もしくは13で「その他」を選択された方へ)その他よく利用する施設はどこですか？

書庫	
コピー機	

※主な意見抜萃

質問15 図書館のサービスはどうか？

質問15	H28年
1. 満足	122
2. ふつう	188
3. 不満	20
回答なし	3
合計	333



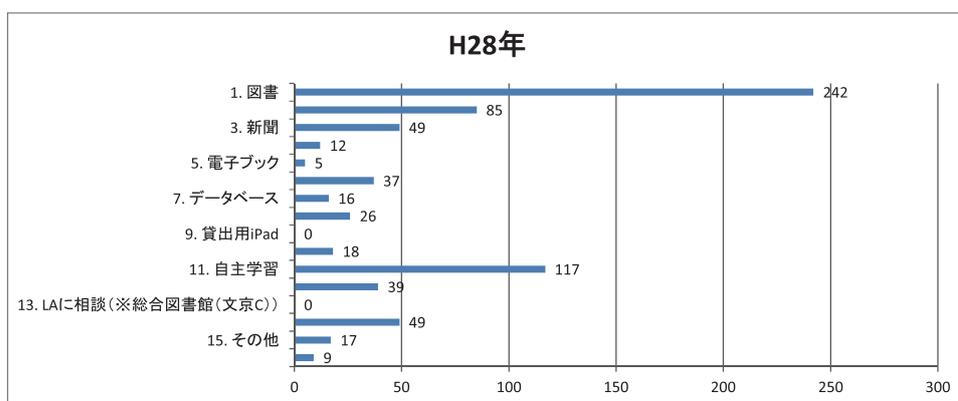
質問16 (質問15で「不満」を選択された方へ)具体的にどのような点が不満ですか？

学術文献(電子ジャーナル)が少ない。
HPが分かりにくい。
行ったときに有人でない場合利用しなれていない者にとっては不便。
利用可能な論文誌が少ない。
開架を増やして欲しい。
館内のパソコンで図書を検索した際に、情報が簡易的に印刷できるようにしてほしい。メモを取らなくてはならず不便。
小学校の教科書や、音楽の指導用CDを学外者が利用できないのが不満です。
カウンターの職員の方の態度が良くないと聞いたことがあります。
医中誌WEBを文京で使えるようにしてほしい。工学部だが、医学の研究をしているので。
小説の冊数が少ない。
図書館は勉強する場であり、決して友人と騒ぐ場所ではないと思う。
現状、テスト期間以外では図書館で騒いでいる学生がいるので勉強に集中できないことがあったため、利用者のマナーの向上がする対策がほしいです。

※主な意見抜萃

質問17 図書館の主な利用目的は何ですか？(複数回答可)

質問17	H28年
1. 図書	242
2. 雑誌	85
3. 新聞	49
4. 視聴覚資料	12
5. 電子ブック	5
6. 電子ジャーナル	37
7. データベース	16
8. パソコン	26
9. 貸出用iPad	0
10. 館内資料の複写	18
11. 自主学習	117
12. グループ学習	39
13. LAIに相談(※総合図書館(文京C))	0
14. 休憩	49
15. その他	17
16. 回答なし	9
合計	721



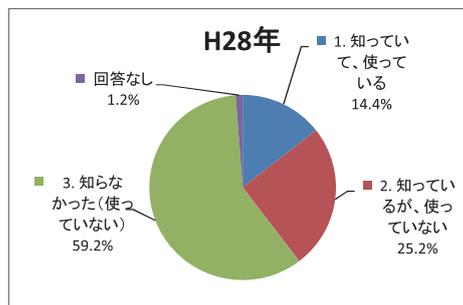
質問18 (質問17で「その他」を選択された方へ)主な利用目的は何ですか？

文献複写依頼
授業準備
ビブリオバトル開催
LDC利用

※主な意見抜萃

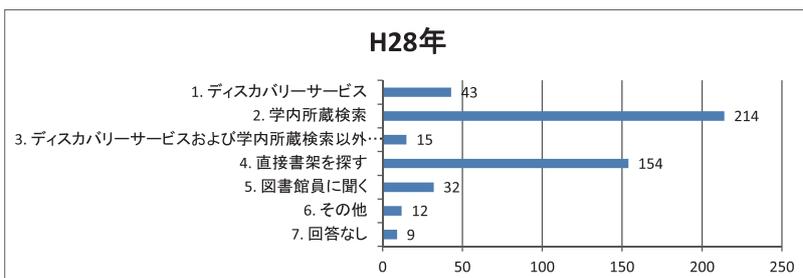
質問19 ディスカバリーサービスについて

質問19	H28年
1. 知っていて、使っている	48
2. 知っているが、使っていない	84
3. 知らなかった(使っていない)	197
回答なし	4
合計	333



質問20 資料はどのように探していますか？(複数回答可)

質問20	H28年
1. ディスカバリーサービス	43
2. 学内所蔵検索	214
3. ディスカバリーサービスおよび学内所蔵検索以外のツール	15
4. 直接書架を探す	154
5. 図書館員に聞く	32
6. その他	12
7. 回答なし	9
合計	479



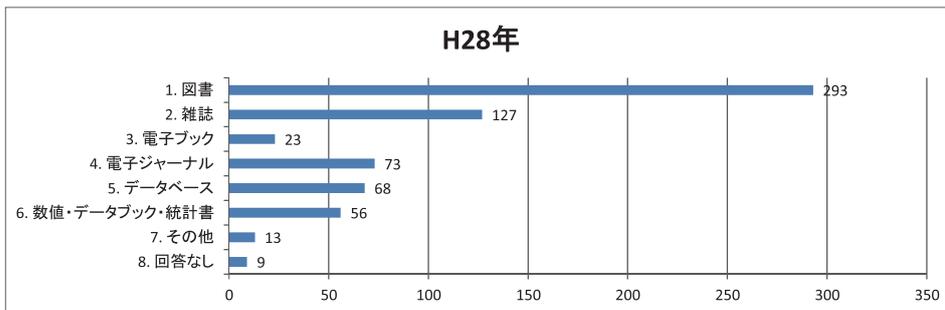
質問21 (質問20で「その他」を選択された方へ)その他どのように資料を探していますか？

Google scholar
Internet

※主な意見抜萃

質問22 学習・研究に必要な資料はなんですか？(複数回答可)

質問22	H28年
1. 図書	293
2. 雑誌	127
3. 電子ブック	23
4. 電子ジャーナル	73
5. データベース	68
6. 数値・データブック・統計書	56
7. その他	13
8. 回答なし	9
合計	662



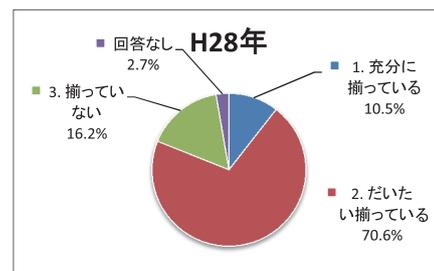
質問23 (質問22で「その他」を選択された方へ)その他のような資料を使用していますか？

他大学等の紀要, 郷土資料(福井県に係わる発行物)等, 他では入手困難なもの
修士論文・博士論文
新聞
小学校の音楽の教科書と指導書
学期初めに参考書の記載があった書籍
論文集

※主な意見抜萃

質問24 必要とする資料は揃っていますか？

質問24	H28年
1. 十分に揃っている	35
2. だいたい揃っている	235
3. 揃っていない	54
回答なし	9
合計	333



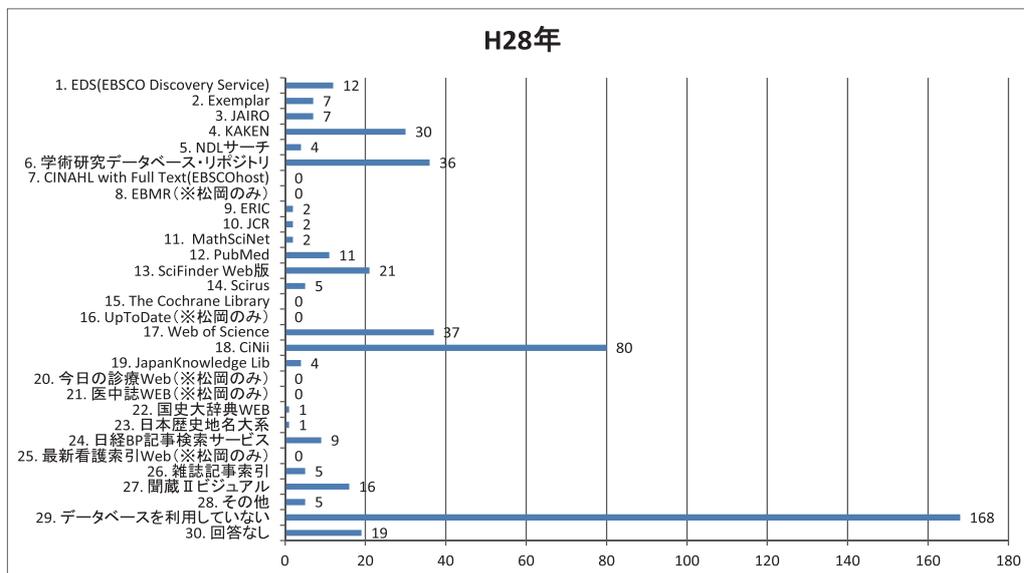
質問25 (質問24で「揃っていない」を選択された方へ)あなたが必要とする資料は具体的にどのようなものですか？

電子ジャーナル
人文系の学術論文データベース
社会科学系の書籍全般
工学、物理学関係の図書
洋書の小説を増やしてほしい
専門分野に関する専門書
古い学会誌など
読売新聞、毎日新聞などのデータベース
楽譜、音楽書
英米文学関係の作品、英米文学作家についての研究書
原子力の教科書関係、原子力の専門書
小学校の音楽の教科書とそれに対応する指導用CDが一部そろってないがあります。
学術雑誌
政治学の学術誌等の蔵書数をもう少し増やして欲しいです。
専門的な知識を入門書のように簡単にまとめた本がもっとほしいです。
各大学の紀要、文学雑誌など
社会科学系の電子ジャーナル

※主な意見抜萃

質問26 データベースは何を利用していますか？(複数回答可)

質問26	H28年
1. EDS(EBSCO Discovery Service)	12
2. Exemplar	7
3. JAIRO	7
4. KAKEN	30
5. NDLサーチ	4
6. 学術研究データベース・リポジトリ	36
7. CINAHL with Full Text(EBSCOhost)	0
8. EBMR(※松岡のみ)	0
9. ERIC	2
10. JCR	2
11. MathSciNet	2
12. PubMed	11
13. SciFinder Web版	21
14. Scirus	5
15. The Cochrane Library	0
16. UpToDate(※松岡のみ)	0
17. Web of Science	37
18. CiNii	80
19. JapanKnowledge Lib	4
20. 今日の診療Web(※松岡のみ)	0
21. 医中誌WEB(※松岡のみ)	0
22. 国史大辞典WEB	1
23. 日本歴史地名大系	1
24. 日経BP記事検索サービス	9
25. 最新看護索引Web(※松岡のみ)	0
26. 雑誌記事索引	5
27. 聞蔵IIビジュアル	16
28. その他	5
29. データベースを利用していない	168
30. 回答なし	19
合計	484



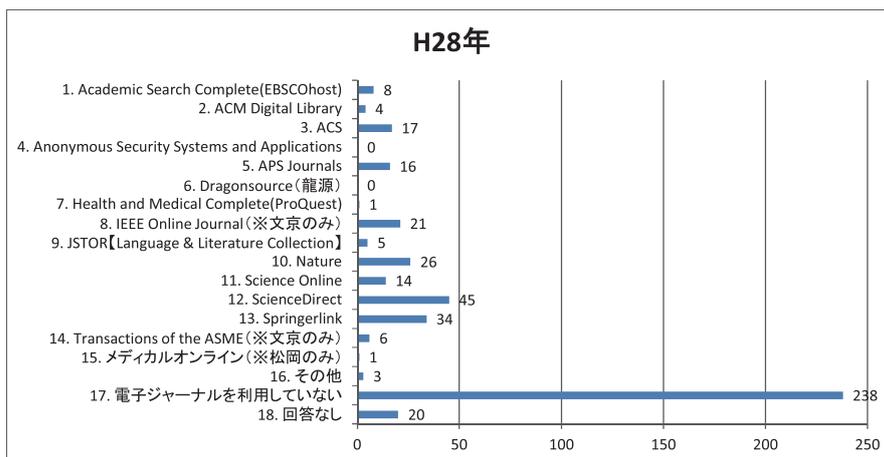
質問27 (質問26で「その他」を選択された方へ)その他データベースで何を使っていますか？

各学会誌、商業誌のデータベース
J-Stage
IEEE Xplore, arXiv, Google Scholar

※主な意見抜萃

質問28 電子ジャーナルは何を利用していますか？(複数回答可)

質問28	H28年
1. Academic Search Complete(EBSCOhost)	8
2. ACM Digital Library	4
3. ACS	17
4. Anonymous Security Systems and Applications	0
5. APS Journals	16
6. Dragonsource(龍源)	0
7. Health and Medical Complete(ProQuest)	1
8. IEEE Online Journal(※文京のみ)	21
9. JSTOR【Language & Literature Collection】	5
10. Nature	26
11. Science Online	14
12. ScienceDirect	45
13. Springerlink	34
14. Transactions of the ASME(※文京のみ)	6
15. メディカルオンライン(※松岡のみ)	1
16. その他	3
17. 電子ジャーナルを利用していない	238
18. 回答なし	20
合計	459



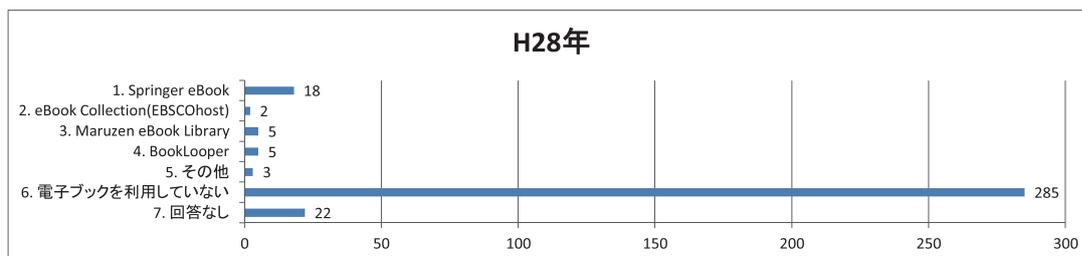
質問29 (質問28で「その他」を選択された方へ)その他どのような電子ジャーナルを使っていますか？

AIP
Wiley(図書館で契約して欲しい)
RSC
IEEE Trans. Inf. Theory, IEICE, Kybernetika, arXiv, Information and Control

※主な意見抜萃

質問30 電子ブックは何を利用していますか？(複数回答可)

質問30	H28年
1. Springer eBook	18
2. eBook Collection(EBSCOhost)	2
3. Maruzen eBook Library	5
4. BookLooper	5
5. その他	3
6. 電子ブックを利用していない	285
7. 回答なし	22
合計	340



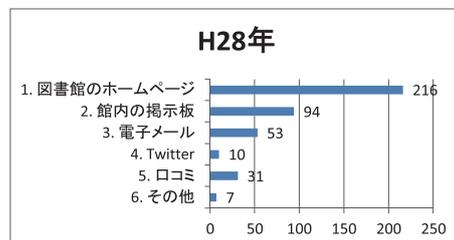
質問31 (質問30で「その他」を選択された方へ)その他電子ブックで何を使っていますか？

amazon kindle

※主な意見抜萃

質問32 図書館の情報はどこから得ていますか？(複数回答可)

質問32	H28年
1. 図書館のホームページ	216
2. 館内の掲示板	94
3. 電子メール	53
4. Twitter	10
5. 口コミ	31
6. その他	7
合計	411



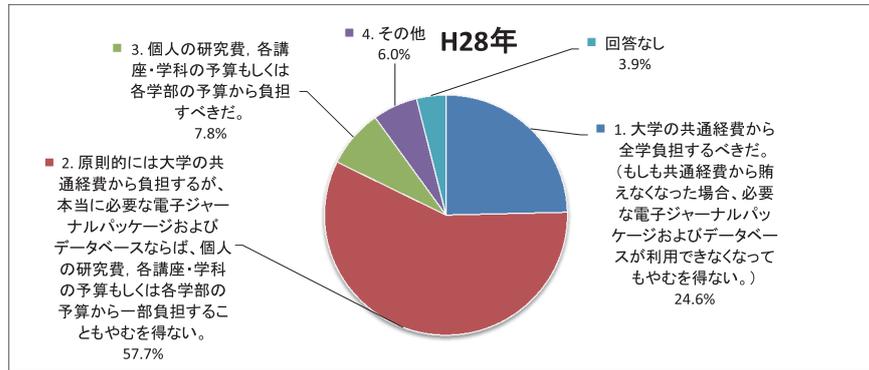
質問33 (質問32で「その他」を選択された方)その他どこから図書館の情報を得ていますか？

図書館の職員から
特に情報は得ていない

※主な意見抜萃

質問34 電子ジャーナルおよびデータベースの費用負担の在り方について、あなたの考えに最も近いものを選択してください。

質問34	H28年
1. 大学の共通経費から全学負担するべきだ。(もしも共通経費から賄えなくなった場合、必要な電子ジャーナルパッケージおよびデータベースが利用できなくなってもやむを得ない。)	82
2. 原則的には大学の共通経費から負担するが、本当に必要な電子ジャーナルパッケージおよびデータベースならば、個人の研究費、各講座・学科の予算もしくは各学部の予算から一部負担することもやむを得ない。	192
3. 個人の研究費、各講座・学科の予算もしくは各学部の予算から負担すべきだ。	26
4. その他	20
回答なし	13
合計(確認)	333



質問35 (質問34で「その他」を選択された方)あなたの考えをご自由にお書きください。

2番の選択肢に近いが、ジャーナルやDBの種類・性質により優先度を変えて取り扱ってはどうか。また実際にそうされているかもしれないが、導入済みのジャーナル・DBの利用率等の分析結果を優先度の選定の基礎的資料として活用し、必要とされるものを精選していく努力が必要であると考え。また利用頻度が低い、先端的な学術・研究の推進のために必要なものの購入においては、部局(あるいは教員個人)の研究費で賄うべきと考え。

大学の共通経費から全学負担するべきだ。電子ジャーナルの予算をより拡充すべきだと思う。

JUSTICE等の電子ジャーナルやデータベースの恒久的確保を支援する事業や外部資金を利用することも検討すべきだと考えます。

大学の共通経費から全学負担するべきだ。共通経費から賄えなくなるなどという事があってはならない。

大学の共通経費における電子ジャーナルの予算を拡充し、電子ジャーナルを増やして欲しい。

電子ジャーナルについて、学科や個人の負担が発生しているが、受益者負担としてほしい。そのぶんアクセス人数に制限をかけるなどして、少しでも安く契約してほしい。

研究領域を広くカバーするデータベース(2次文献データベース)は研究環境の“インフラ”として大学で死守すべきと思います。1次も研究者の研究領域を広くカバーするものに関してはなるべく大学・学部等で何らかの支援をすべきですが、予算との相談ですね。

※主な意見抜萃

質問36 図書館をよりよく利用するためにはどのような仕組みがあれば便利だと考えますか？ご自由にお書きください。

学内他部署との連携の仕組みがあるとよい。例えば、事務局間の連携では、経営戦略課との連携を図れば、先取的な高等教育政策にキャッチアップした蔵書の整備や学生に対し、そうした方向性に向かうための機運の醸成に寄与する企画が展開できる可能性がある。学務部との連携では、学生が今、学びたい内容に近接したサービスの提供により満足度の向上に繋がる可能性がある。修学だけではなく、留学や異文化理解、学生生活、就職、資格試験受験等の支援である。

また学部(教員)との連携がもっとあってよいと考える。例えば、AP,CP,DPだけでなく、カリキュラムマップやカリキュラムツリーが各学部では策定されており、体系的な学びを進める傾向は今後、さらに加速するはずで、学部の養成したい学生像を把握した上での図書館整備を行えば、より福井大学の附属図書館としての効用を格段に高めることができると考える。

学外関係者で本学卒業生も含まれるが、卒業生も学内関係者と同じような時間帯で利用できるようにしてほしい。

電子ジャーナルは研究の基幹となるコンテンツです。昨年電子ジャーナルの削減の話がよく出てきますが、研究者にとって「電子ジャーナルの削減」＝「研究するな」という理解で、モチベーションが激減します。大学全体でダウンロード可能なアカウントを賄う予算がないのであれば、たとえば、図書館内の限定PCでのみ利用可能なアカウントをつくるとか、うまくできないものでしょうか。ジャーナル各社も独占事業なのをよいことに値段を釣り上げていっている現状もよく理解しておりますので、近隣の他大学と提携するとか、できないものでしょうか。著作権の問題もあるでしょうが、ご検討宜しくお願いします。

附属学校の教員が図書館を利用する場合、業務とみなされずに駐車料金を支払う必要がある。せっかく有用な資料があっても、結局は公立の図書館を利用することになり、非常に残念である。図書館の問題ではないが、ぜひ改善を要求いただけるとうれしい。ただ、返却は学内便を利用させてもらい非常に助かっている。そのことを広報いただけると、利用が増えると思う。

無人開館の時間を24時間にしてほしい。研究をするうえでとても便利。

人文学的には歴史と記憶を大切にすることが図書館を位置づけてほしいということ。あるいは、かつて哲学者ジョン・デューイは学校の中央に図書館を位置づけていたことは、改めて考える意味があると思っています。図書館職員だけでなく、すべての教員・職員・学生で図書館をつくることは大切であらうし、大学図書館の存在を、学内者だけでなく、学外の市民とも共有することも大切かと思えます。そのためには、とりあえず図書館職員・(一応それなりの情報・知識を持っているはずの)教員がwin-winな関係をつくって(推薦図書もその一環かと)、さらに学生・職員・市民を巻き込んでいくことがいいかと思いました。具体的ではなくてすみません。

大学の図書館として学術的な蔵書やデータベースの拡充をしていただきたいです。
文献複写や相互貸借を申し込む際、一旦My Libraryに登録しなければならないというのが手間に思います。
学番号、職員番号が割り振られる時点で自動的に図書館のサービスも受けられるようになればよいと思います。

電子ジャーナルの維持に関しては、発行元との交渉など維持できる方向でご支援の程よろしくお願致します。大変だとは思いますが。

図書などの閲覧と同時に、インターネットを使用したいので、無料Wi-Fiを整備すると良いと思います。

いくつかの大学が連携して巨大な総合図書館を作って、多くの電子ジャーナルを閲覧できるようにしてほしい。

所蔵されている本の冊数を増やしてほしい。上記にも書いたが、英米文学関係の作品や作者についての本が少ないと思う(購入できる図書に限界があることは分かっています。専門的な内容になればなるほど数が膨大すぎて難しいと思います。それでも、文学部のある大学ほどとは言いませんが、文学関係を先行されている教授の先生方とご相談の上作品をふやしていただくと嬉しいです)。

個人的には、文献の複写や貸し出しを迅速にして頂けて、満足しております。あとは、私のスキル不足が問題なのですが、電子ジャーナル、電子ブックを上手に利用できると良いと思います。

現状では、教員からのアクセスがあまりにも悪く、どうしてもらったらよいのか思いつかない。

給水ボットが勉強しているときに喉が乾くので、ラウンジにほしいです。

一般には新刊図書等の入荷があった場合は、学生・教職員にメール等にてお知らせいただけるとありがたい。

学内所蔵検索用のPCを増やしてほしい

学内の方と学外者の区別を少なくすることだと思います。

学生に対して、図書館内でのルール(ラウンジ以外での飲食禁止など)を順守させる仕組みをつくる。
ルールを守れない場合は、何かしらのペナルティを付けるようにする。

全体的に机を増やしてほしい

増築(勉強スペースetc)

統計科学(データサイエンス)の書籍を増やしてほしい。

今後益々、電子ジャーナルおよびデータベースが必要となります。これらの年間使用料がどんどん上がっていき、全学での負担から、ユーザー負担へいっても、それを支えるだけの運営費交付金を配分されないと、それすらできなくなります。研究教育環境を維持するための、あるいは、向上させるための手段を、他大学とも組みながら考えて(出版元とも交渉して)いって下さい。無理難題かと思いますが、どうぞよろしくお願致します。

電子ジャーナルが見れなくなることは研究意欲が著しく下がります。図書館のPCからしかアクセスできない(1端末だけ)などでもよいので、できるだけ多くの雑誌を安くみることができるようお願いします。また、他大学図書館と連携するなどして、ひろく雑誌をみることができるようしてほしい。

判事・判例集等を抱えて書庫と玄関前のコピー機を往復するのは手間がかかるので、書庫内にもコピー機があれば便利だと思います。

もっと学習スペースを増やす。ラーニングアドバイザーの時間や人を増やす。

蔵書数が少なく不便。他の図書館からカンタンにHPからワンボタンで一取り寄せできるようにしてほしい

自分に必要な学術図書をたまたまに検索するが、ほとんど無いのであきらめている。また読みたい小説などは市立図書館を利用するので不便はない。お願いしたいのは、図書の購入を絞っても良いから、学術ジャーナル誌を充実させて欲しいと思う。

アクティブラーニング用の教室を図書館内に置いて、図書をよく利用する授業に使ってもらえるのもよいかもしれません。

全ての机でコンセント使用可能にできればさらに良い。

※主な意見抜萃

総合図書館利用者アンケートQ & A

自己点検評価のためのアンケート（総合図書館）に対する Q & A

今回のアンケートはおおむね 3 年毎に行う附属図書館自己点検評価のための利用者アンケートである。図書館ホームページ上でのアンケートの回答を原則としたが、学外利用者を含む来館利用者にも紙ベースでのアンケートを行い、333 名の方から回答があった。

学部別では、教育地域科学部 27.6%、工学部 44.4%、事務局 20.4%であり、身分別では学生・院生が 42.6%、教員 33.6%、事務職員 23.1%となっている。

【Q1】開館日・開館時間について

回答者の 8 割が現状でよいと回答しているが、約 2 割が変更してほしいと回答している。具体的な内容は開館時間延長、土日祝時間延長がほとんどである。

【A】開館時間は 27 年度より授業期間の平日は 6 時～22 時とし、朝 1 時間、夜 2 時間の開館時間を増やしています。また、試験期には土日の開館時間を 2 時間延長しています。時間外利用統計を参考にしながら、今後も様子を見ていきたいと思ひます。

【Q2】貸出冊数・貸出期間について

現状でよいが 95%で、5%が変更を希望している。具体的には貸出冊数を増やしてほしいや貸出期間の延長を希望している。

【A】貸出期間については更新が最高 5 回までできるので、それに対応できないでしょうか。このサービスは図書館の Web サービスからも可能ですから、ぜひ利用していただきたいです。研究者の貸出冊数については、研究用に書庫の本は研究室貸出ができるのでこの制度を利用していただけるとよいです。必要がなくなった場合は返却を御願ひします。

【Q3】館内設備について

満足及び普通が約 90%に対して、10%の方が不満を感じています。PC が遅い重い。コンセントを増やしてほしいなどの意見がある。また、その他、建物については学習スペースやトイレの増設、館内の空調に対する意見があった。

【A】PC の遅い、重いは認証とデータ保全・管理ソフトが原因とみて、運用も含めて対応していますのでご理解ください。空調については館内の温度管理に努めています。空気循環のため閲覧室内に扇風機を設置してあります。また、館内の温度上昇を抑えるため、できるだけ窓のカーテンを下げてご利用ください。冬場は利用者用に膝掛けを用意させていただきましたのでご利用ください。学習スペースは近年、1F の展示用スペースに机・イスなどを置き学習用スペースとさせていただいています。設備の増設や改修は経費が伴いますので、今後の検討事項としたいと思ひます。

【Q4】図書館をよりよく利用するためにはどのような仕組みがあれば便利と考えますか？

【Q4-1】 図書館の Web サービスについて

【A】 図書館の Web サービス (MyLibrary) は図書館に利用登録をしていただいた時点で利用することができます。ただし、ログインが必要になります。MyLibrary から本のリクエストや文献複写依頼、相互貸借依頼ができます。また SDI アラートと言ってキーワードを登録して新着情報を受取るサービスもあります。また、蔵書検索の画面には新着案内の項目もありますのでご利用ください。図書館の蔵書検索や MyLibrary は学外からでも利用可能です。返却日の通知メールについては現在、返却日前日の 20 時に一斉メールを出していますが、システム上変更可能であれば、前々日への変更を検討したいと思います。

【Q4-2】 図書館のマナーについて

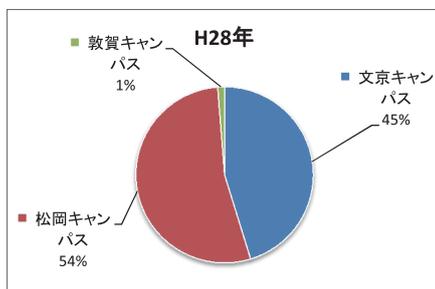
【A】 図書館では飲食禁止などのポスターを掲示したり、机上に貼ったりして注意を促しています。また、最近はグループ学習のできるスペースを増やしたため、話ができる場所が多くなりました。施設を利用するにあたっては、その施設の規則を守ることは基本だと思いますので、利用者自身が自覚していただく必要もあると思われます。図書館としては、今後も掲示などをして注意喚起したいと思います。

医学図書館利用者アンケート集計結果

附属図書館(医学図書館)利用者アンケート調査(集計)

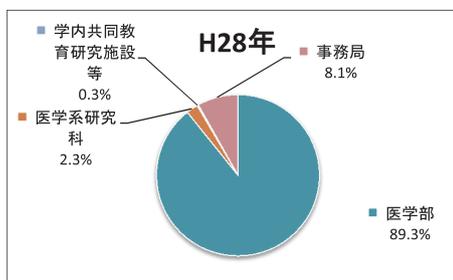
質問1 キャンパスを選択してください。

質問1	H28年
文京キャンパス	324
松岡キャンパス	383
敦賀キャンパス	9
合計	716



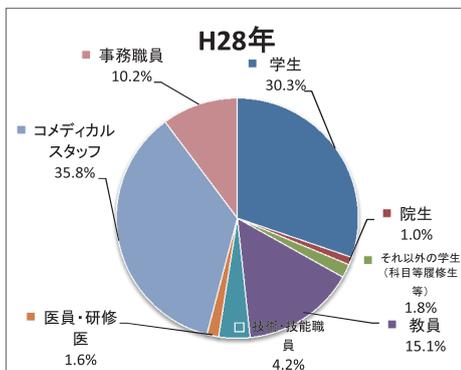
質問2 所属を選択してください。

質問2	H28年
教育地域科学部	0
教育学研究科	0
工学部	0
工学研究科	0
医学部	342
医学系研究科	9
学内共同教育研究施設等	1
事務局	31
学外者	0
合計	383



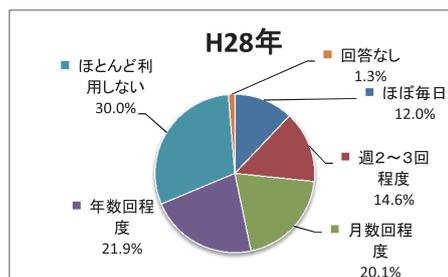
質問3 身分を選択してください。

身分	H28年
学生	116
院生	4
それ以外の学生(科目等履修生等)	7
教員	58
技術・技能職員	16
医員・研修医	6
コメディカルスタッフ	137
事務職員	39
学外者	0
合計	383



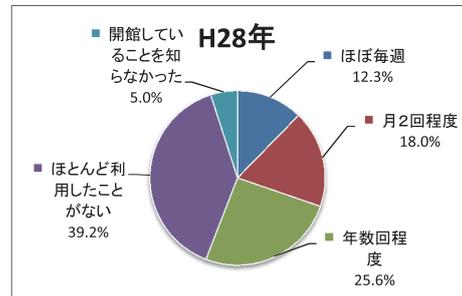
質問4 図書館の利用頻度を教えてください。

質問4	H28年
ほぼ毎日	46
週2~3回程度	56
月数回程度	77
年数回程度	84
ほとんど利用しない	115
回答なし	5
合計	383



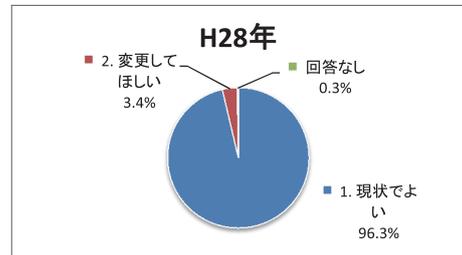
質問5 土曜日や日曜日なども開館していますが、利用したことがありますか？

質問5	H28年
ほぼ毎週	47
月2回程度	69
年数回程度	98
ほとんど利用したことがない	150
開館していることを知らなかった	19
回答なし	0
合計	383



質問6 開館日・開館時間について

質問6	H28年
1. 現状でよい	369
2. 変更してほしい	13
回答なし	1
合計	383



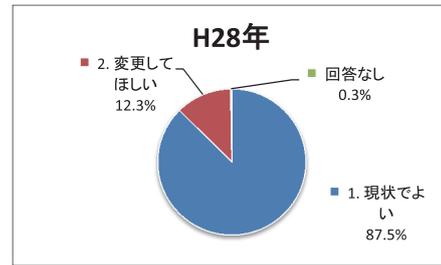
質問7 (質問6で「変更してほしい」を選択された方へ) 具体的にどのように変更してほしいですか？

平日なら20時前、土日なら17時前に一旦外に出るシステムはなんとかありませんか？
 グルーラボの使用可能時間増えないですか？
 夏休みの土日や年末年始もラボが使えるといいなと思います。
 人がいる時間が、9時20時をもう少し変更してほしい。業務開始が8時半なので、8時から人がいると文献などの対応などがうれしい。夜も21時までいてくれたらうれしい。

※主な意見抜萃

質問8 貸出冊数・貸出期間について

質問8	H28年
1. 現状でよい	335
2. 変更してほしい	47
回答なし	1
合計	383



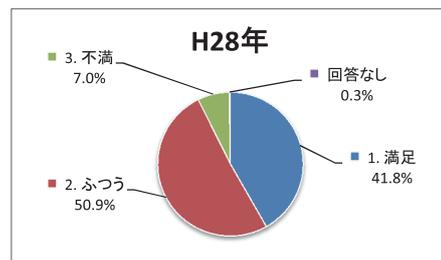
質問9 (質問8で「変更してほしい」を選択された方へ) 具体的にどのように変更してほしいですか？

貸出期間を2週間にしてほしい。
専門書を読むのには時間がかかるので、もっと長く(1ヶ月程度)借りれるようにしてほしい。
貸出冊数の増加を希望します。
長期休暇中の貸出期間を延ばして欲しい。
10冊2週間にしてほしい。

※主な意見抜萃

質問10 館内設備について

質問10	H28年
1. 満足	160
2. ふつう	195
3. 不満	27
回答なし	1
合計	383



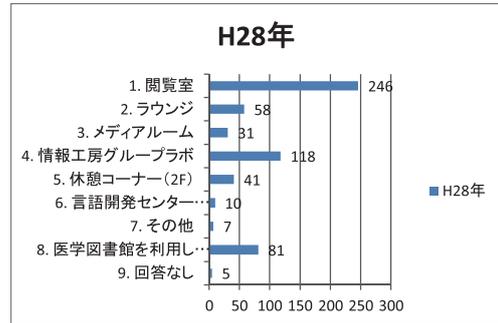
質問11 (質問10で「不満」を選択された方へ) 具体的にどのような点が不満ですか？

ゴミ箱、自動販売機を設置してほしい。
WiFiが繋がりにくいことがある。LDCで、WiFiをつなげてほしい。
飲食スペース欲しい。
ラボも24時間使えるようにってらうれしいです。
エアコンの調節が集中管理でなく、気温に応じてだとありがたいです。
シュレッターを設置してほしい。
学生の席とり。本が少なすぎる、そして古い、看護系が充実していない。学会誌も少ない。
個別ブースについたてがほしい。
書籍の案内がわかりにくい。
プリンターがない事、プリンターできないことです。

※主な意見抜萃

質問13 医学図書館(松岡C)で、よく利用する施設はどれですか？(複数回答可)

質問13	H28年
1. 閲覧室	246
2. ラウンジ	58
3. メディアルーム	31
4. 情報工房グループラボ	118
5. 休憩コーナー(2F)	41
6. 言語開発センター(LDC)	10
7. その他	7
8. 医学図書館を利用しない	81
9. 回答なし	5
合計	597



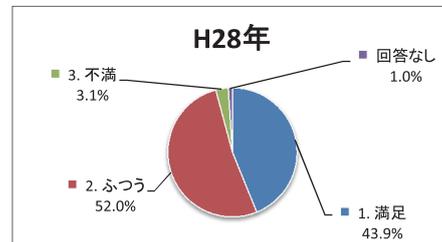
質問14 (質問12もしくは13で「その他」を選択された方へ)その他よく利用する施設はどこですか？

文献複写室
internetでの接続による利用
書架

※主な意見抜萃

質問15 図書館のサービスはどうか？

質問15	H28年
1. 満足	168
2. ふつう	199
3. 不満	12
回答なし	4
合計	383



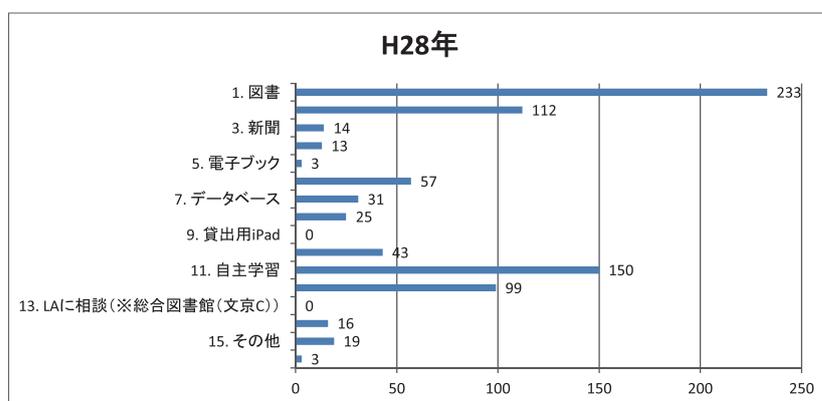
質問16 (質問15で「不満」を選択された方へ)具体的にどのような点が不満ですか？

・1日使用したいとき、軽食をもちこんで食べてよいか、表示などないのでわからない。
・荷物を置いて席とりがしてあり、長いこといい場所をとって帰ってこないのはどうにかならないか。メモがあっても使いづらい。
医学系以外の図書も少し置いて頂けたら嬉しい。
利用したい電子ジャーナルが揃っていない。
松岡図書館の新聞の種類が少ない。
語学開発センター等英語学習もより積極的に利用したいが、利用方法等が明記がなく、利用できない。もう少し利用サービスの仕方を明記するか、MATSUALLなどで、積極的にアピールしてほしい。気軽に参加できるような体験説明会をコマメディカルでも参加できるような夜遅くに積極的に開いてほしい。
パソコン操作はパソコンコーナー以外では禁止されているはずなのに、学生ではない利用者が大きな音を立ててパソコンをタイプしたりマウス操作を行うため、ワープロやマウスのクリック音が気になって勉強に集中できない。そういった利用者を注意してほしい。
松岡キャンパス図書館にて、しばらく席を空けていたら借りていた書籍を返却された。しばらく席を空けている人の机を事務の方がチェックして回る際に、図書館の本を回収しているのを見たことがあるのでそれだと思う。しばらく席を空けた私も悪かったが、勝手に借りてた本を返されるのは非常に困るのでやめてほしい。張っていた付箋等も返却のために剥がされて困った。
学生から聞く話ですが、勉強する席が足りないと聞きます。勉強する席の工夫をされてはいかがでしょうか？

※主な意見抜萃

質問17 図書館の主な利用目的は何ですか？(複数回答可)

質問17	H28年
1. 図書	233
2. 雑誌	112
3. 新聞	14
4. 視聴覚資料	13
5. 電子ブック	3
6. 電子ジャーナル	57
7. データベース	31
8. パソコン	25
9. 貸出用iPad	0
10. 館内資料の複写	43
11. 自主学習	150
12. グループ学習	99
13. LAに相談(※総合図書館(文京C))	0
14. 休憩	16
15. その他	19
16. 回答なし	3
合計	818



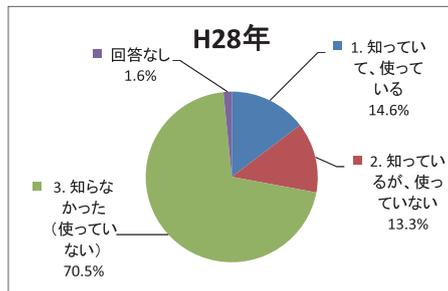
質問18 (質問17で「その他」を選択された方へ)主な利用目的は何ですか？

勉強
スケジュールの合わせ

※主な意見抜萃

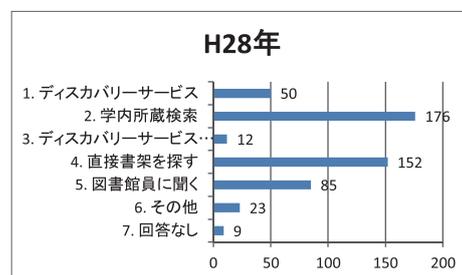
質問19 ディスカバリーサービスについて

質問19	H28年
1. 知っていて、使っている	56
2. 知っているが、使っていない	51
3. 知らなかった(使っていない)	270
回答なし	6
合計	383



質問20 資料はどのように探していますか？(複数回答可)

質問20	H28年
1. ディスカバリーサービス	50
2. 学内所蔵検索	176
3. ディスカバリーサービスおよび学内所蔵検索以外のツール	12
4. 直接書架を探す	152
5. 図書館員に聞く	85
6. その他	23
7. 回答なし	9
合計	507



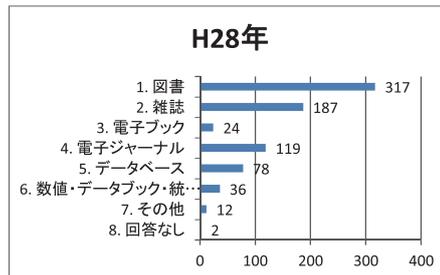
質問21 (質問20で「その他」を選択された方へ)その他どのように資料を探していますか？

ネット検索
資料を探したことはありません。
CiNiiを使って探しています。

※主な意見抜萃

質問22 学習・研究に必要な資料はなんですか？(複数回答可)

質問22	H28年
1. 図書	317
2. 雑誌	187
3. 電子ブック	24
4. 電子ジャーナル	119
5. データベース	78
6. 数値・データブック・統計書	36
7. その他	12
8. 回答なし	2
合計	775



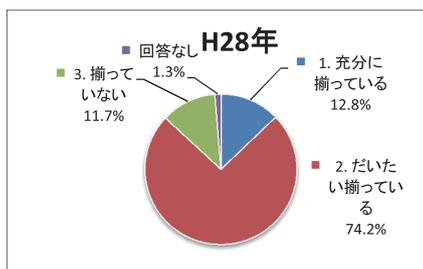
質問23 (質問22で「その他」を選択された方へ)その他どのような資料を使用していますか？

看護関係の原著論文
資料を利用したことはありません。

※主な意見抜萃

質問24 必要とする資料は揃っていますか？

質問24	H28年
1. 十分に揃っている	49
2. だいたい揃っている	284
3. 揃っていない	45
回答なし	5
合計	383



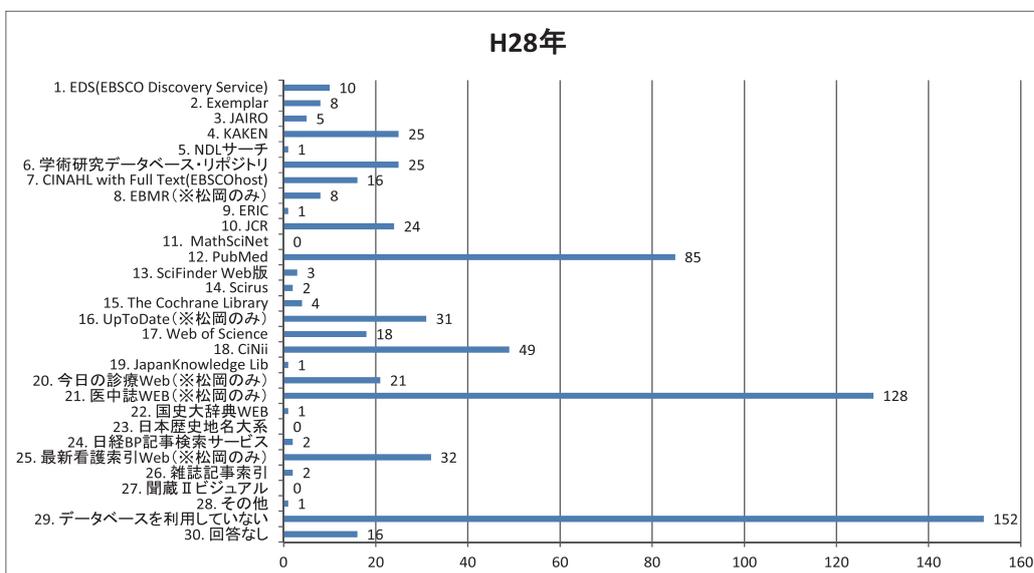
質問25 (質問24で「揃っていない」を選択された方へ)あなたが必要とする資料は具体的にどのようなものですか？

自分の専門領域の電子ジャーナルが読めるものが少ない。
幅広い分野の雑誌
課題をするためにみんなが同じ時期に同じ図書が必要とするため、特に看護過程の図書などは一冊ずつあっても足りませんでした。
パソコンソフトなどの図書が少ない。
生化学系の専門雑誌
慢性呼吸器認定看護師関係資料、在宅看護や地域看護
版が新しくなっている書籍・テキストなどが無い。改訂されたら更新してほしい。
医療経済学のレポートでの参考資料があまり無かった。
人気のある小説など
学会誌
看護に関する本全般
医学書は多いが、医学、医療に関した一般の本などが無い。
薬理学、生薬、薬物動態学
精神医学・心理学関係の書籍
5年以内の研究資料、データ、エビデンス

※主な意見抜萃

質問26 データベースは何を利用していますか？(複数回答可)

質問26	H28年
1. EDS(EBSCO Discovery Service)	10
2. Exemplar	8
3. JAIRO	5
4. KAKEN	25
5. NDLサーチ	1
6. 学術研究データベース・リポジトリ	25
7. CINAHL with Full Text(EBSCOhost)	16
8. EBMR(※松岡のみ)	8
9. ERIC	1
10. JCR	24
11. MathSciNet	0
12. PubMed	85
13. SciFinder Web版	3
14. Scirus	2
15. The Cochrane Library	4
16. UpToDate(※松岡のみ)	31
17. Web of Science	18
18. CiNii	49
19. JapanKnowledge Lib	1
20. 今日の診療Web(※松岡のみ)	21
21. 医中誌WEB(※松岡のみ)	128
22. 国史大辞典WEB	1
23. 日本歴史地名大系	0
24. 日経BP記事検索サービス	2
25. 最新看護索引Web(※松岡のみ)	32
26. 雑誌記事索引	2
27. 聞蔵IIビジュアル	0
28. その他	1
29. データベースを利用していない	152
30. 回答なし	16
合計	671

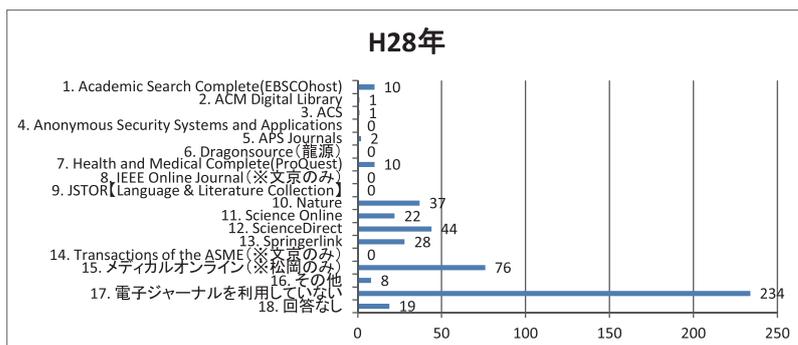


質問27 (質問26で「その他」を選択された方へ)その他データベースで何を使っていますか？

利用しない。

質問28 電子ジャーナルは何を利用していますか？(複数回答可)

質問28	H28年
1. Academic Search Complete(EBSCOhost)	10
2. ACM Digital Library	1
3. ACS	1
4. Anonymous Security Systems and Applications	0
5. APS Journals	2
6. Dragonsource(龍源)	0
7. Health and Medical Complete(ProQuest)	10
8. IEEE Online Journal(※文京のみ)	0
9. JSTOR(Language & Literature Collection)	0
10. Nature	37
11. Science Online	22
12. ScienceDirect	44
13. Springerlink	28
14. Transactions of the ASME(※文京のみ)	0
15. メディカルオンライン(※松岡のみ)	76
16. その他	8
17. 電子ジャーナルを利用していない	234
18. 回答なし	19
合計	492



質問29 (質問28で「その他」を選択された方へ)その他どのような電子ジャーナルを使っていますか？

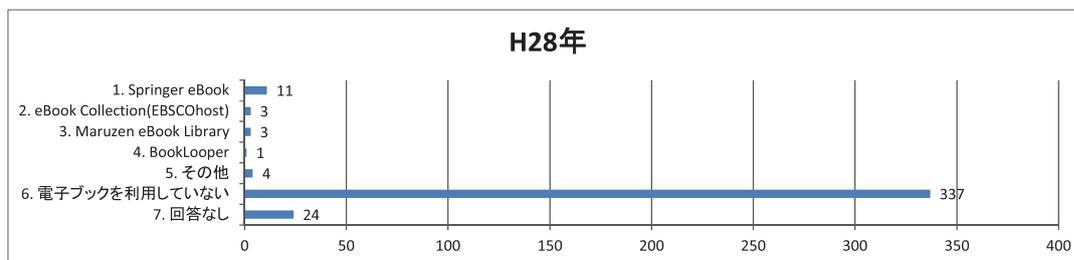
PabMedで出てくる右上のリンクをクリックしてダウンロードする。出来なかった場合、ScienceDirectを確認するが、契約外であることがほとんどである。

Wiley

※主な意見抜萃

質問30 電子ブックは何を利用していますか？(複数回答可)

質問30	H28年
1. Springer eBook	11
2. eBook Collection(EBSCOhost)	3
3. Maruzen eBook Library	3
4. BookLooper	1
5. その他	4
6. 電子ブックを利用していない	337
7. 回答なし	24
合計	383

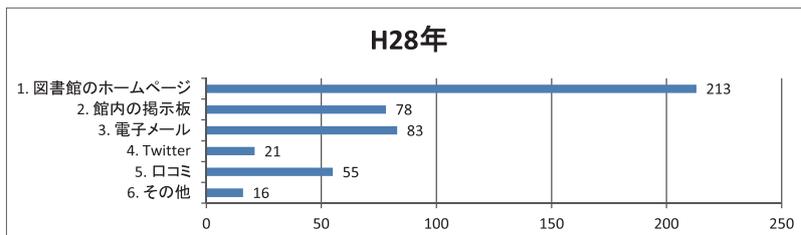


質問31 (質問30で「その他」を選択された方へ)その他電子ブックで何を使っていますか？

※回答なし

質問32 図書館の情報はどこから得ていますか？(複数回答可)

質問32	H28年
1. 図書館のホームページ	213
2. 館内の掲示板	78
3. 電子メール	83
4. Twitter	21
5. 口コミ	55
6. その他	16



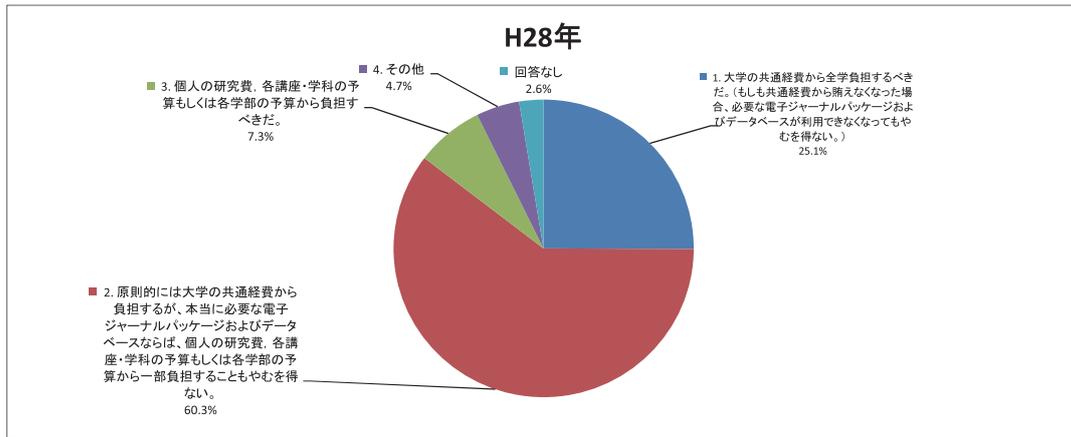
質問33 (質問32で「その他」を選択された方)その他どこから図書館の情報を得ていますか？

必要なときに図書館に行って本を探す。
友だち
元学生
得ていない。

※主な意見抜萃

質問34 電子ジャーナルおよびデータベースの費用負担の在り方について、あなたの考えに最も近いものを選択してください。

質問34	H28年
1. 大学の共通経費から全学負担するべきだ。(もしも共通経費から賄えなくなった場合、必要な電子ジャーナルパッケージおよびデータベースが利用できなくなってもやむを得ない。)	96
2. 原則的には大学の共通経費から負担するが、本当に必要な電子ジャーナルパッケージおよびデータベースならば、個人の研究費、各講座・学科の予算もしくは各学部の予算から一部負担することもやむを得ない。	231
3. 個人の研究費、各講座・学科の予算もしくは各学部の予算から負担するべきだ。	28
4. その他	18
回答なし	10
合計	383



質問35 (質問34で「その他」を選択された方)あなたの考えをご自由にお書きください。

大学の共通経費から全額負担するべきで、共通経費から賄えないような状況にするべきではない。
他大学の図書館と連携することで、契約雑誌が増えないだろうか。今、契約している雑誌の一覧を出して、利用の有無を確認したり、今入っていない雑誌の中での契約希望雑誌のアンケートをとってはどうかと思う。
ネット検索をして、GAKUNINで使えるジャーナル一覧を掲示して欲しい。 みたいと思ったジャーナルが見られないことはよくある。 費用負担については、いま、見られるジャーナルに何があるのかわからないからなんとも言えない。
原則大学の共通経費から負担してほしいですが、使用頻度の極端に低いものは負担せず、本当に必要な雑誌、記事を負担してほしい。
電子ジャーナルが自由に見られるようにしてください。見られないと仕事になりません。
大学の予算削減で厳しい中だと思いますが、図書館の電子ジャーナルに関するような予算は減らすべきでないと思います。

※主な意見抜萃

質問36 図書館をよりよく利用するためにはどのような仕組みがあれば便利だと考えますか？ご自由にお書きください。

医学部図書館の一般図書が少ないので、もう少し増やして欲しいです。 学生さんは若いうちにもっと本を読む必要があると思います。 本の紹介などは、とても工夫されていて良いと思います。 領域の推薦図書が入荷されたときに連絡が欲しいです(次回の推薦の時にはいただいています、早く読みたいので。)その際、本の登録番号も教えていただきたいです。よろしく願いいたします。
貸出延長がWebからできることを積極的にアピールすると良いと思います。
自習スペースで話す人はいないのですが、ペンを置いたりする音がうるさい人がいたりするので、机の上に防音マットのようなものを敷いてほしい。
飲み物を蓋なしのものも認めてほしい。
閉館時に特別利用者も全員一時退館させるのは無駄だと思う。その前の時間に自主的にカードを通しておけばいいだけの話である。
蔵書を多くし、最新の書籍を置いていただけるとよい。
ほとんどの場合、自分自身で読みたい論文を手に入れることができるのだが、データベースの活用法や、論文(本文)を探し出すメディアリテラシーが不足していて、いつも図書館の方に迷惑をおかけしています。これにこりず、いつでも相談に乗っていただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。
電子ブックについて知らなかった。色々な方法で周知できるようにして頂くと、利用者も増えるのではないのでしょうか。 昨年から駐車場がゲート化されているので、速くに車を停めている病院職員が、病院から研究棟または講義棟から入りやすくなるようになるとありがたいと思う。
絶えず図書館のシステムを工夫してくださって、とてもありがたいです。センター試験の日ほどの学年も大事なテストが近いので、使えたらもっといいのと思います。
・J-stageがあるとさらに良いです。(利用できる大学もあるため) いつも職員の方々の丁寧で優しい対応をして頂き、利用する側にはとても有難いです。
図書館が寒いので、暖房の温度をコントロールできるようにして欲しい。また、休日の5時に一旦出なければならぬが大変。カードを5時までに通してあれば退出しなくても良いというふうにして欲しい。
言語センターに1階から出入りできるようにする。 言語センターの開館時間を長くする。(図書館のように24時間使いたい) 古本をシェアできるのはとてもいいと思う。
入館をタッチパネルでできるようにしてほしい。(学生証をタッチパネルにタッチ) 一つ一つの机に蛍光灯があると、嬉しい。また、消しカスを捨てるゴミ箱がないのは辛い。
飲み物だけでもOKにしてほしい。24時以降もブルーラボをあげてほしい
学生にとって図書館の24時間解放が本当によいと思います。これからも無人開放は継続して欲しいです。ラボについて、24時までの利用でも十分だとは思いますが、作業がいいところで終わってしまった事も度々あります(こんなことを言い出せばきりがないのですが)。朝までの利用は現実的ではないと思うのですが、深夜2時くらいまで利用を延長することが出来ないのでしょうか？
医学図書館が24時間利用可能なのがまずありがたいです。今までの試験に合格できたのは図書館とラボの存在があってこそです。国試の受験生としては、席を確保してもよいシステムができたことにも感謝しています。 職員の方々が、掲示やイベントで図書館をより良くしようとして下さっているのも伝わります。 多くの学生がほぼ一日中利用するので、一部で衛生面やマナーが崩れてしまうこともあるのが申し訳ない。 各学年のテスト予定を把握してもらえると、利用状況の予測に繋がって、職員の方々も対処しやすくなるかもしれないと思います。
図書館の運営に学生を巻き込む。例えば、漫画サークル。Web貸出延長機能、マイライブラリの利用方法、相互貸借など、利用者と図書館員を登場させて漫画にするなど。
利用率が多い書籍は最新の版が出たら、おいてほしい。
読みたいと思った瞬間に情報源にアクセスできないと、思いついたアイデアが死んでしまいます。 電子ジャーナルにしても紙の冊子にしても個人のクレジットカード払いで立て替えて、後から図書館予算(お金が足りなくなった場合には個人の研究費)で精算する仕組みがほしいです。 いま年度末で書籍が購入できませんが、不自由です。
図書貸出期限のお知らせメールを前日ではなく2日前にいただけることを希望します。 (理由)図書貸出期限が間近になったというお知らせは、図書返却や貸出更新手続きにおいて大変役に立っております。 しかし、時に貸出期限前日の夜間や休日等に連絡メールがあるため、貸出期限に気づくのが当日になることがあります。 その場合、本が自宅にあれば返却が遅れる可能性があります。システム変更へのご検討よろしく願いいたします。
少ない予算ながらもよく考えてくださっており、大変ありがたいと思っています。 文献を取り寄せる費用がどのくらいかかるのか不明瞭なのでわかりやすくして、もう少し安くなると、図書館にそろえる雑誌は少なくとも何とかなると 思います。
敷居が高い気がします。あと、看護系の専門図書が県立大に比べて少ないと小耳に挟んだことがあります。 もともと図書館は好きで、あちこちの公共の図書館に向いて主に雑誌を読んでいるのですが、大学職員や近所の人たちにも色々なジャンルの雑誌を常備してもらって気軽に立ち寄れるようになってほしいと思います。
図書館でうけられるサービスが不鮮明。たぶんいろいろできるはずだが、知られていない。様々な説明会などをすべきだが、病院関係者の場合、夜遅くでないと受けられないので、開催時間を考慮して、積極的に開催してほしい。特に英語などの語学学習のサービスの利用方法など積極的に開催してほしい。
医学図書館が24時間使えることがとても有難いです。今後もこのような仕組みを続けていただければと思います。 ゴミ箱が必要という声も時々聞かれますが、館内の美化のために絶対導入しないでください。
館員の方の閲覧室での私語が過ぎると思っています。また、清掃の方の清掃もどうして閉館時間をすぎたらなのでしょうか？ 8時くらいに行っていたらと嬉しいですが。
最近よく、学生とは思えないような利用者がよく見られるが、そういう人に限って勉強スペースで声をあげて笑ったり喋っていたり、コードを張り詰めてでもコンセントを利用したりしている。学生であるならば学生同士話し合いで解決する事もできるが、大人相手には学生ではなかなかいづらひ。図書館の職員はそういう人に対して注意してほしい…。 講習会などの情報発信はありがたいです。
経済的に困難な学生のために、卒業生の図書を寄付してもらい、半期または一年、学生に貸し出すサービスを行ってはいかかでしょうか？
図書館にある資料が院内のホームページから確認できると、わざわざ行ったが資料がなかったという事がなくてありがたいです。
病院で勤務しており、職員カードでの入館となりますが、業務上マグネット等でじきがこわれて入室できなくなることが多く、そのつどじきを入れてもらったり、カードを仕事以外でけいたいしていないことも多いので利用しづらい。できれば別で入室できるように希望者だけで図書カードを発行してほしいです。
今の利用条件でも充分だと思っています(他施設と比べると)。これからも今と同じような条件で利用できると良いと思います。

※主な意見抜萃

医学図書館利用者アンケートQ & A

自己点検評価のためのアンケート（医学図書館）に対する Q & A

今回のアンケートはおおむね 3 年毎に行う附属図書館自己点検評価のための利用者アンケートである。図書館ホームページ上でのアンケートの回答を原則としたが、学外利用者を含む来館利用者にも紙ベースでのアンケートを行い、383 名の方から回答があった。

学部別では、医学部 91.66%、事務局 8.1%であり、身分別では学生・院生が 31.3%、教員 15.1%、コメディカルスタッフ 35.8%、事務職員 10.2%となっている。

【Q1】開館日・開館時間について

医学図書館は 24 時間開館を実施しているが、有人開館を閉館し、引き続き、無人開館を利用する場合、一度退出しなければならないが、何とかならないか。

【A】閉館時の一斉退館により、その後の特別利用時間帯は許可された方のみ入館することとなります。利用者の安全のため、ご協力下さい。

【Q2】情報工房グループラボの利用時間を延長してほしい。また、夏休みの土日や年末年始にも利用できるよう無人開館を行ってほしい。

【A】特別利用時は、資料の閲覧が本来の目的ですが、学生の皆さんのご要望に応え、学習スペースの開放もしています。ただし、無人状態のためか、マナーの悪い利用者も見受けられます。そのため、これ以上の開放は施設管理の観点から躊躇されます。ご了承下さい。また、夏休みの土日、年末年始は、図書館内は終日無人開館となっており、ラボカードの貸出業務ができません。そのため、利用者間のトラブルの可能性が考えられますので実施は難しいです。

【Q3】貸出冊数・貸出期間について

貸出数および貸出期間の延長してほしい。

【A】予約が入ってなければ最大 5 回まで貸出期間を延長することができます。カウンターや自動貸出返却装置でもできますし、自宅等からネットで図書館ホームページにアクセスしマイライブラリという自分のページにアクセスするだけで延長が可能です。是非ご利用ください。

冊数・期間共に、少しでも多くの方にご利用頂けるよう現在の設定にさせていただいております。年々資料費が厳しくなっているため、複本を揃える余裕がありません。資料の有効活用のため皆さまのご協力をお願いいたします。

【Q4】学生の席取り、荷物放置を取り締まってほしい。机の下に段ボール箱が置かれている席について利用してよいのかわからない。

【A】荷物を置いたまま、長時間不在にされていると、他の利用者が利用したくても利用で

きません。皆様のご協力をお願いします。なお、職員が巡回し、荷物が放置されている場合は、警告書を置いています。それでも改善が見られない場合は、事務室で保管させていただきますので、ご了承ください。

また、机の下の段ボール箱等については、医学科6年生及び看護学科4年生が一時的に置いています。不在の場合はどなたも自由に利用することができます。

【Q5】インターネット環境について、パソコンの調子が悪い。ネットのつながりが悪い。Wi-fi がつながりにくい。

【A】不特定多数の方が使用するためか、故障することがあります。故障の場合は、職員もしくは業者に依頼し迅速に対応しますので、故障が判明次第、そのままにせずカウンターまでお申し出ください。利用者の皆さんも大切にお使いくださるようお願いいたします。

また、wi-fi については確かに館内の場所によってつながりにくくなっています。総合情報基盤センターに確認していただいておりますが、原因不明であり、もしくは改修に多額の費用がかかるということです。今後も改善を要望していく予定ですが、それまではお手数ですが、利用可能な場所へ移動して利用してください。

【Q6】パソコン専用のエリアをしっかりと区切ってほしい。

【A】館内はどこでも使用できるよう床に電源及び情報コンセントを設置しています。しかし、音などが気になる方についてはメディアルームに移動していただくようにしますので、職員にお申し出ください。

【Q7】テスト期間になると必要な本がない。

【A】シラバス選定図書については、これまで1冊ずつしか購入していませんでしたが、2冊購入し、1冊は貸出禁止として館内のみでの利用とすることで、必ず閲覧できるような改善をしました。

【Q8】パソコンソフトや医療経済学のレポート用などの一般図書が少ない。

【A】パソコンソフトについては改訂が激しいため、購入を控えていますが、ご要望がありますので検討させていただきます。また、医療経済学のレポート用の図書については、今年課題図書リストをいただき、確認したところ、27冊中16冊については総合図書館を含む本学で利用することができ、またそれ以外の9冊については、県内図書館相互貸借（Libox）を利用すれば借りることができることがわかりましたので、どうぞご利用ください。

また、年に1度、学生によるブックハンティングという企画を開催しています。これは、図書委員を中心として学生の皆さんに直接勝木書店へ出かけて本を選んでもらい購入するというものです。書店にない場合は、本の情報をいただいて購入することもできます。さ

らに、恒常的に、図書リクエストサービスというサービスを提供しており、館内にある購入図書希望申込書に記入して提出いただければ、図書館での重複等の確認をした上で、購入していますのでこちらもご利用ください。

【Q9】電子ブックについて知らなかった。

【A】電子ブックとは、インターネット上で読める本のことです。ネット環境があれば図書館に来なくても利用することができます。登録すれば家など学外からも利用可能です。また、特定の用語で検索することもでき、しおり機能やメモ機能を持っているタイプもありますので図書館ホームページ→資料情報検索→電子ジャーナル・電子ブックからアクセスしてみてください。

【Q10】図書館の運営に学生を巻き込むことを考えてほしい。例えばまんがサークルに図書館の利用案内を作成してもらおうなど。

【A】現在、図書委員の方に学生ブックハンティングについては協力いただいておりますが、それ以外はほとんど機能していません。大変ありがたいご意見ですので採り入れさせていただきたいと考えています。

【Q11】本の購入依頼を出してから、本が実際に手元に届くまでに時間が掛かりすぎる。改善してほしい。

【A】図書が図書館に到着しても月にまとめて行う支払い処理が完了するまで図書の受け渡しが出来ない状況で、タイミングによっては受け渡しが非常に遅れてしまうことがありましたが、業務処理の見直しを行い、図書が到着して目録及び装備が終わった時点（支払いをする前の状態）で図書を渡せるように改善しました。

統計編

福井大学附属図書館統計

1. 図書館規模

1-1. 蔵書等

		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	蔵書冊数	504,646	512,494	519,717	521,554	527,167
	逐次刊行物所蔵数	13,235	13,256	13,382	13,352	13,229
	図書館・図書室数	1	1	1	1	1
	図書館施設面積(m ²)	4,999	5,346	5,346	5,346	5,346
	座席数	400	400	400	400	400
	図書館職員数 定員(非常勤)	10(6)	10(6)	10(6)	9(6)	9(6)
医学図書館	蔵書冊数	126,157	127,855	130,079	130,944	131,125
	逐次刊行物所蔵数	4,546	4,558	4,582	4,647	4,654
	図書館・図書室数	1	1	1	1	1
	図書館施設面積(m ²)	2,484	3,015	3,307	3,307	3,307
	座席数	287	427	427	427	427
	図書館職員数 定員(非常勤)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)	4(3)
合計	蔵書冊数	630,803	640,349	649,796	652,498	658,292
	逐次刊行物所蔵数	17,781	17,814	17,964	17,999	17,883
	図書館・図書室数	2	2	2	2	2
	図書館施設面積(m ²)	7,483	8,361	8,653	8,653	8,653
	座席数	687	827	827	827	827
	図書館職員数 定員(非常勤)	14(8)	14(8)	14(8)	13(8)	13(9)

1-2. 経費

(千円)

		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
		金額	金額	金額	金額	金額
総合図書館	図書館総経費	158,667	158,951	151,718	125,783	121,926
	図書館資料費	138,147	137,570	123,451	114,828	86,717
	うち図書購入費	25,728	24,621	21,567	8,922	14,463
	うち雑誌購入費	31,175	31,711	10,582	41,376	3,534
	うち電子資料費	81,244	81,238	91,302	64,530	68,720
医学図書館	図書館総経費	30,742	30,671	30,362	31,804	39,579
	図書館資料費	25,966	25,160	25,507	25,919	27,655
	うち図書購入費	9,244	8,235	7,182	5,677	7,986
	うち雑誌購入費	9,719	9,434	10,240	11,817	15,548
	うち電子資料費	7,003	7,491	8,085	8,425	4,121
合計	図書館総経費	189,409	189,622	182,080	157,587	161,505
	図書館資料費	164,113	162,730	148,958	140,747	114,372
	うち図書購入費	34,972	32,856	28,749	14,599	22,449
	うち雑誌購入費	40,894	41,145	20,822	53,193	19,082
	うち電子資料費	88,247	88,729	99,387	72,955	72,841

1-3. 年間受入数

		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	年間受入図書数	7,729	7,974	7,223	6,001	5,354
	年間購読雑誌数	765	717	717	571	567
医学図書館	年間受入図書数	2,890	2,750	2,370	1,840	2,013
	年間購読雑誌数	375	385	337	327	297
合計	年間受入図書数	10,619	10,724	9,593	7,841	7,367
	年間購読雑誌数	1,140	1,102	1,054	898	864

契約している電子ジャーナル・データベースの費用対効果表

※アクセス件数：電子ジャーナル→フルテキストダウンロード件数、データベース→検索件数

2. 電子ジャーナル

契約タイトル(コレクション)	予算	WEBアクセス		契約金額(円)							※アクセス件数(年間)							アクセスコスト(契約金額/件数(円))				
		文京	松岡	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)				
SciVerse ScienceDirect (PDF+HTML)	コア	○	○	45,444,000	46,724,286	48,039,552	50,978,576	36,951,615	83,215	82,393	78,526	88,589	55,951	546	567	612	575	660				
SciVerse ScienceDirect (PDF)	コア	○	○	45,444,000	46,724,286	48,039,552	50,978,576	36,951,615	45,397	41,317	39,063	40,631	28,619	1,001	1,131	1,230	1,255	1,291				
Springer LINK	コア	○	○	5,866,527	5,838,469	5,624,213	7,124,004	7,783,910	13,140	12,750	12,447	16,950	12,148	446	458	452	420	641				
Nature (本誌のみ)	コア	○	○	987,210	1,143,500	1,199,435	1,265,684	1,428,944	4,763	3,832	2,582	3,160	3,105	207	298	465	401	460				
Science Online (2011年まで医学部)	コア	○	○	228,420	434,600	514,362	638,924	742,524	758	1,488	1,555	1,499	1,814	301	292	331	426	409				
ACM (Association for Computing Machinery)	サブ(総)	○	○	682,437	657,666	490,773	816,253	972,422	340	441	265	219	250	2,007	1,491	1,852	3,727	3,890				
ACS (American Chemical Society)	サブ(総)	○	○	4,711,741	4,669,000	4,961,418	6,273,407	7,228,679	20,119	16,850	16,896	17,627	17,142	234	277	294	356	422				
APS (American Physical Society)	サブ(総)	○	○	798,497	772,269	798,153	1,029,058	1,184,859	2,916	2,763	1,998	1,798	2,094	274	280	399	572	566				
EBSCO (Academic Search Complete)	サブ(総)	○	○	-	-	1,025,200	1,056,000	1,087,700	-	-	1,809	2,708	2,582	-	-	567	390	421				
ProQuest (Academic Research Library)	サブ(総)	○	○	1,153,202	1,088,668	-	-	-	990	617	-	-	-	1,165	1,732	-	-	-				
Nature Group	サブ(医)	○	○	5,019,840	5,482,000	5,755,784	5,744,040	5,715,774	3,985	4,841	7,326	6,978	7,610	1,260	1,132	766	823	751				
EBSCO (MEDLINE Complete)	サブ(医)	○	○	-	-	1,174,800	-	-	-	-	1,948	-	-	-	-	603	-	-				
ProQuest (Health and Medical Complete)	サブ(医)	○	○	1,285,200	1,224,000	-	1,398,000	1,607,000	805	1,650	-	632	795	1,597	742	-	2,212	2,021				
Applied Physics Letters	工学部	○	○	352,455	357,678	380,829	525,369	637,874	2,680	2,040	2,436	2,039	2,325	132	175	156	258	274				
IEEE All-Society Periodicals Package(ASPP)	工学部	○	○	4,218,411	4,178,197	4,234,651	5,467,664	1,940,151	3,129	3,725	4,065	3,684	1,806	1,348	1,122	1,042	1,484	1,074				
Journal of Applied Physics	工学部	○	○	465,323	479,060	526,331	725,999	881,714	1,455	1,278	1,479	1,087	1,211	320	375	356	668	728				
Cell Press (Elsevier)	医学部	○	○	1,450,695	1,537,480	1,591,287	1,646,983	1,959,505	3,374	1,362	2,833	2,828	3,700	430	1,129	562	582	530				
メディカルオンライン	医学部	○	○	1,732,500	1,730,400	1,705,200	1,753,920	1,753,920	34,193	30,866	29,658	34,257	34,991	51	56	57	51	50				

3. データベース

データベース	学部	アクセス	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
SciFinder	共通・工学部	○	4,881,450	4,672,000	4,980,000	5,224,000	5,563,560	12,359	16,298	15,503	16,414	19,811	395	287	321	318	281
JCR Science Edition	共通	○	627,060	589,079	731,112	878,610	1,056,630	2,630	2,749	57,890	65,301	69,149	238	214	13	13	15
Web of Science	*基盤共通 H24-27	○	3,303,924	3,263,340	3,391,520	4,524,628	5,786,176	8,751	9,490	6,967	8,701	14,089	378	344	487	520	411
MathSciNet	工学部	○	895,227	874,132	874,349	1,161,349	1,408,435	1,292	2,423	2,869	1,879	3,111	693	361	305	618	453
医中誌Web	医学部	○	371,700	370,650	370,650	379,080	379,080	36,399	31,700	33,795	38,985	42,216	10	12	11	10	9
CINAHL with Full text	医学部	○	1,063,200	1,063,200	1,116,000	1,205,000	1,265,000	1,092	12,648	619	1,325	1,193	974	84	1,803	909	1,060
EBMR	医学部	○	397,850	381,272	448,549	549,192	640,719	594	657	704	346	582	670	580	637	1,587	1,101
UpToDate	医学部	○	1,413,720	1,537,351	1,932,176	2,236,100	2,392,627	4,815	5,746	7,820	7,841	7,660	294	268	247	285	312
今日の診療	医学部	○	322,560	322,560	322,560	331,776	331,776	8,485	5,576	4,099	5,636	6,154	38	58	79	59	54

4. 開館状況

4-1. 開館状況

			H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	開館状況	年間開館日数	316	313	312	313	319
		年間開館時間数	3,582	3,594	3,636	3,998	4,198
	無人開館	年間開館日数	312	312	311	310	294
		年間時間数	766	770	798	953	951
医学図書館	開館状況	年間開館日数	352	350	361	360	362
		年間開館時間数	8,426	8,358	8,515	8,640	8,681
	無人開館	年間開館日数	350	353	360	360	362
		年間時間数	5,160	5,119	5,276	5,381	5,405

4-2. 休日・時間外の開館状況

		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
		日数・時間数	日数・時間数	日数・時間数	日数・時間数	日数・時間数
総合図書館	休日開館日数	76	73	73	74	79
	休日開館時間数	537	523	527	534	529
	時間外開館時間数	1,662	1,662	1,705	2,086	2,208
医学図書館	休日開館日数	113	105	112	117	123
	休日開館時間数	2,712	2,585	2,858	2,808	2,941
	時間外開館時間数	6,505	6,470	5,919	6,696	6,769

4-3. 毎週の開館時間数（無人開館時間は含まない）

			H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	平日	開館時間	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～22:00 6月後半9:00 ～22:00	9:00～22:00
		開館時間数	55	55	55	65	65
	土日祝日 等	開館時間	13:00～16:00	13:00～16:00	13:00～16:00	13:00～16:00	13:00～16:00
		開館時間数	6	6	6	6	6
	合計		61	61	61	71	71
医学図書館	平日	開館時間	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～20:00	9:00～20:00
		開館時間数	55	55	55	55	55
	土日祝日 等	開館時間	10:00～17:00	10:00～17:00	10:00～17:00	10:00～17:00	10:00～17:00
		開館時間数	7	7	7	7	7
	合計		62	62	62	62	62

5. サービス

5-1. 入館者と貸出

			H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	入館者数	学内者	147,071	143,291	154,189	177,993	177,820
		学外者	1,251	6,904	5,399	3,199	4,466
	館外貸出	学内者	33,076	35,045	35,836	35,183	39,395
		学外者	1,173	1,094	1,006	1,212	1,798
医学図書館	入館者数	学内者	171,917	178,688	171,367	169,473	160,129
		学外者	2,960	3,987	4,791	2,054	1,907
	館外貸出	学内者	17,859	17,154	20,240	21,281	20,325
		学外者	576	823	687	573	691
合計	入館者数	学内者	318,988	321,979	325,556	347,466	337,949
		学外者	4,211	10,891	10,190	5,253	6,373
	館外貸出	学内者	50,935	52,199	56,076	56,464	59,720
		学外者	1,749	1,917	1,693	1,785	2,489

5-2. 相互貸借

ILL受付件数と依頼件数

			H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	現物貸借	受付件数	398	412	404	409	390
		依頼件数	576	480	462	522	841
	文献複写	受付件数	768	762	728	630	552
		依頼件数	1,498	1,257	1,203	880	957
医学図書館	現物貸借	受付件数	87	84	64	80	70
		依頼件数	82	40	35	60	102
	文献複写	受付件数	828	814	668	777	652
		依頼件数	2,035	2,028	2,035	1,817	1,679
合計	現物貸借	受付件数	485	496	468	489	460
		依頼件数	658	520	497	582	943
	文献複写	受付件数	1,596	1,576	1,396	1,407	1,204
		依頼件数	3,533	3,285	3,238	2,697	2,636

対県立図書館貸借件数（県内公共図書館）

2007.10より県内公共図書館との相互利用体制が整う。

		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	貸出	164	146	175	160	158
	借受	248	225	174	234	513
	合計	412	371	349	394	671
医学図書館	貸出	32	43	24	27	29
	借受	48	33	26	43	90
	合計	80	76	50	70	119
合計	貸出	196	189	199	187	187
	借受	296	258	200	277	603
	合計	492	447	399	464	790

6. 貴重資料（特殊コレクション）

* コレクション名

- 1.道元文庫 (502冊)
- 2.高島文庫 (664点)
- 3.小島家文書 (5,730点)
- 4.好日文庫 (図書3,497冊)
- 5.グリフィス文書 (図書75冊,複写資料1,063点)

7. 電子図書館

コレクション	小島家文書
	グリフィスコレクション

(累積)

	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
電子ブック	3,497	4,347	8,409	8,627	9,550
資料の電子化数	110	110	110	110	110

リポジトリ登録件数

リポジトリ	件数	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
学術機関リポジトリ	登録件数	1,407	2,106	791	354	672
	累計件数	4,154	6,260	7,051	7,405	8,077
地域共同リポジトリ	登録件数	114	114	132	183	1,219
	累計件数	2,596	3,022	2,714	2,897	4,116
合計件数		6,750	9,282	9,765	10,302	12,193

8. 企画展示活動

8-1. 展示会等

総合図書館		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
教科書展示会	日数	28				
	参加人数					
	備考	6/17-7/14		2013/6/14-2013/7/11	2014/6/13-7/10	2015/6/19-7/16
企画 1	企画名	祝！入学者のための図書館企画展示 キーワードで図書館しましょ♪	新入生のための展示”図書館へようこそ”	新入生企画「知ってほしい図書館のココ」	新入生企画「図書館へようこそ」	ミニ展示 ・天文図解・夏の星空 ・グリフィス書状展示 ・クリスマス展示 ・浮世絵版画選集 歌川広重「東海道・・・」 ・季節の本テーマ”新” ・季節の本テーマ”水” ・季節の本テーマ”祭” ・季節の本テーマ”秋” ・季節の本テーマ”冬” ・アドベントカレンダークリスマスポップツリー ・人気作家ガチバトル 東野圭吾vs伊坂幸太郎の貸出冊数バトル ・教員推薦図書展示1 ・サポーター企画図書館クイズラリー ・Thick Books展示 ・教員推薦図書展示 ・旅行の本
	日数					
	参加人数					
企画 2	備考	4/1-5/20		2013/4/5-2013/5/24 2013/11/17	2014/4/5-2014/5/9	
	企画名	書墨溢香～本の香り墨の香り	小島家文書寄贈披露展	グリフィスと福井増補改訂出版記念展 グリフィスと福井増補改訂出版記念講演会	私を借り展	
	日数					
企画 3	参加人数					
	備考	5/26-6/30	5/25-6/7	2013/5/31-2013/6/12	2014/8/8-2014/9/30	
	企画名	第4回写真部&写真同人ふおとん展 わたしと詩の世界	水のペットボトル展	行ってみんけ？知の泉展	秋の眠れない夜特集	
企画 4	日数					
	参加人数					
	備考	7/1-8/5	7/19-8-6	2013/08/9-2013/10/04	2014/10/7-2014/11/30	
企画 4	企画名	高校生のための夏休み企画「行ってみんけ？知の泉」	行ってみんけ？知の泉	ピーターラビット写真展	ミニ展示 ・往来物 ・絵葉書でみる昔の福井 ・心のキャンパスを彩る不思議な生きもの ・論文・レポートの本紹介 ・越前若狭いろはかるた ・季節の本テーマ”雪”	
	日数					
	参加人数					
企画 4	備考	8/9-9/30	8/8-9/28	2013/10/20-2013/10/31		

総合図書館		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
企画 5	企画名	グリム展 若人よ勇気を持って！福井大学でグリムを語ろう	総合図書館貴重資料展	図書館員・書店員が20代にすすめる本		
	日数					
	参加人数					
	備考	10/21-11/14 講演会「グリム兄弟とその童話集をめぐって～写真と解説」	10/21-10/26	2013/11/20-2013/12/18		
企画 6	企画名	WEグリフィス来福140年記念事業「お雇い外国人教師グリフィス展」		みんなでつくる写真展		
	日数					
	参加人数					
	備考	11/22-1/10		2014/01/27-2月中旬		
福井大学オープンキャンパス・一日遊学企画	日数					
	参加人数					
	備考					大学の教科書展示
きてみてフェア	日数		1			
	参加人数		1,144			
	備考		10/20 ペーパークラフトを作ろう	ペーパークラフトを作ろう	和装本を作ろう	和装本を作ろう

医学図書館		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
企 画 1	企 画 名	ようこそ医学看護の世界へ	総合診療医って知ってますか？	WHO AM I?日本の近代名著の触れてみませんか？	これから論文を書く方へ	2015年 ノーベル医学・生理学賞
	日 数	4/6～	7月～	14	24	23
	参加人数					
	備 考			5/7-5/20	4/22-5/15	10/9-10/31
企 画 2	企 画 名	「災害医療」について考える	山中氏ノーベル医学/生理学賞受賞！	国際協力師という仕事		企画展 戦時中の義手ー戦争と障害を考える
	日 数	7/1～	10月～	15		11
	参加人数					
	備 考			11/1-11/15		11/24-12/4
企 画 3	企 画 名	書を捨てよ、旅に出よう	本のリユース	かるた展～筋肉カルタ		世界エイズデー
	日 数	11/4～	1月～	15		15
	参加人数					
	備 考			1/8-1/22		12/1-12/15

医学図書館		H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
企 画 4	企 画 名			教員著者を集めました		東日本大震災から5年
	日 数			18		28
	参加人数					
	備 考			10/24-11/10		3/8-4/4
企 画 5	企 画 名			オープンキャンパス 医学図書館紹介		
	日 数			1		
	参加人数					
	備 考			8/8		

8-2. 広報活動

図書館利用ガイド(年1回)

図書館fourm(福井大学図書館報)(年1回)

W.Eグリフィス来福140年記念事業報告書(平成24年度)

グリフィスと福井 増補改訂版 山下英一著 福井大学監修 (平成25年3月発行)

8-3. 研修会及び講習会

	研修会種別	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)
総合図書館	授業	附属図書館ガイダンス(5)	附属図書館ガイダンス(5)	附属図書館ガイダンス(5)	附属図書館ガイダンス(5)	附属図書館ガイダンス(5)
		情報処理基礎(11)	情報処理基礎(12)	情報処理基礎(11)	情報処理基礎(13)	情報処理基礎(15)
	電子ジャーナル	0	0	0	0	0
	データベース	3	2	1	2	2
医学図書館	授業	12	12	13	12	12
	電子ジャーナル	0	0	0	0	0
	データベース	3	3	4	2	4

福井大学附属図書館自己点検評価報告書

平成29年3月31日 発行

編集・発行 福井大学附属図書館
〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号
Tel. 0776-27-8943
<http://www.flib.u-fukui.ac.jp/hyoka/hyoka2017.pdf>
